

2019 授業科目〈シラバス〉

Okinawa Prefectural University of Arts Syllabus

沖縄県立芸術大学
美術工芸学部

授業科目〈シラバス〉について

この「2019授業科目〈シラバス〉」は、平成31年度に美術工芸学部で開講される専門教育科目について、各担当教員から提出された授業計画（シラバス）をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、総合教育科目、共通教育科目及び教職に関する科目は別冊となっています。

1. 実技の授業科目は、その多くが複数の実習（課題）で構成されています。この場合、授業科目の頁のあとに実習（課題）ごとのシラバスが記載されていることがあります。
2. 今年度開講する科目のみを掲載しています。
3. 集中講義科目については、単位数・学期欄に（集中）と表記されています。
4. 担当教員名欄の（名）は名誉教授を、（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
5. ■履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、授業外の学習を含めて履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。
6. その他、本学の授業科目には科目名の末尾に番号等が付されているものがあります。これらは、科目開設の趣旨や性格、また分類上のルールがありますので、入学時に配布された履修案内等を確認してください。

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁	
絵 画	必修主要	21110	絵画基礎	5	1	前	実技	1	
		21112	日本画Ⅰ	6	1	後	実技	7	
		21113	箔	2	1	後	演習	12	
		21213	日本画Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	13	
		21214	日本画Ⅱ－Ⅱ	7	2	後	実技	15	
		21121	油画Ⅰ	7	1	後	実技	21	
		21223	油画Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	25	
		21224	油画Ⅱ－Ⅱ	7	2	後	実技	29	
		21231	絵画特論Ⅰ	2	1	通年	講義	42	
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	43	
		21291	古美術研究	4	2	後期	演習	44	
		必修専攻 専門関連	21132	彫刻(絵)	2	1	前	演習	45
			21133	デザイン(絵)	2	1	前	演習	46
			21209	工芸(絵)	2	2	前	演習	47
彫 刻	必修主要	22110	デッサン	1	1	前	実技	48	
		22113	彫刻Ⅰ－Ⅰ	5	1	前	実技	49	
		22114	彫刻Ⅰ－Ⅱ	7	1	後	実技	53	
		22213	彫刻Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	56	
		22214	彫刻Ⅱ－Ⅱ	6	2	後	実技	59	
		22215	構成	1	2	後	実技	62	
		22231	彫刻特論Ⅰ	2	2	通年	講義	69	
	必修専攻 専門関連	22121	絵画(彫)	2	1	前	演習	72	
		22209	デザイン(彫)	2	2	前	演習	73	
		22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75	
	選択専攻 専門関連	22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講	
芸 術 学	必修主要	23110	素描(芸)	2	1	前	演習	76	
		23114	実技研究(絵画)	3	1	後	実技	78	
		23115	実技研究(表現)	2	1	後	実技	81	
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	84	
		23217	学外研究	4	2	後	演習	85	
	必修専攻 専門関連	23151	絵画(芸)	2	1	前	演習	87	
		23152	彫刻(芸)	2	1	前	演習	88	
		23153	デザイン(芸)	2	1	前	演習	89	
		23154	工芸(芸)	2	1	前	演習	90	
	選択主要	23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100	
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102	
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103	
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104	
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105	
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講	
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106	
		23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107	
		23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	108	
		23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	109	
選択専攻 専門関連	23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	110		
	23441	西洋美術史特講	2	2～4	前	講義	111		
	23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	112		
	23330	絵画演習A	2	2～3	前	演習	281		
23331	絵画演習B	2	2～3	後	演習	282			
23261	彫刻演習A	2	2～3	前	演習	284			
23262	彫刻演習B	2	2～3	後	演習	285			
23334	デザイン演習A	2	2～3	前	演習	287			
23335	デザイン演習B	2	2～3	後	演習	288			
23336	工芸演習A	2	2～3	前	演習	290			
23337	工芸演習B	2	2～3	後	演習	291			

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁	
デザイン	必修主要	24112	デザインⅠ	3	1	前	実技	113	
		24113	木工芸基礎	2	1	後	演習	116	
		24114	立体造形(デ)	2	1	後	演習	117	
		24115	素描(デ)	1	1	後	実技	118	
		24116	色彩構成	2	1	後	演習	119	
		24117	空間構成	2	1	後	演習	120	
		24223	デザインⅡ-I	7	2	前	実技	121	
		24224	デザインⅡ-II	7	2	後	実技	127	
	必修専攻 専門関連	24121	絵画(デ)	2	1	前	演習	147	
		24123	彫刻(デ)	2	1	前	演習	148	
		24124	工芸(デ)	2	1	前	演習	149	
	選択専攻 専門関連	24132	西洋建築史	2	1~4	前	講義	308	
		24133	日本建築史	2	1~4	後	講義	309	
		24153	クラフトデザイン計画	2	1~4	後	講義	310	
		24161	プロダクトデザイン論	2	1~4	後	講義	311	
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1~4	前	講義	312	
		24171	視覚伝達論A	2	1~4	前	演習	313	
		24172	視覚伝達論B	2	1~4	後	演習	314	
		24181	環境造形論	2	1~4	前	講義	315	
		24184	人間工学	2	1~4	後	講義	327	
		24251	図学	2	1~4	前	演習	316	
	工芸	必修主要	25112	描写	1	1	前	実技	150
			25113	色彩	1	1	前	実技	151
			25114	立体構成	1	1	前	実技	152
25101			工芸Ⅰ	7	1	後	実技	153	
25209			工芸Ⅱ	5	2	前	実技	158	
25261			立体造形(工)	1	2	前	実技	164	
25262			版画	1	2	前	実技	165	
25221			染Ⅰ	7	2	後	実技	167	
25231			織Ⅰ	7	2	後	実技	185	
25232			繊維科学	2	2	後	講義	206	
25222			染色化学	2	2	後	講義	207	
25211			陶芸Ⅰ	7	2	後	実技	209	
25212			窯業化学	2	2	後	講義	226	
25241			漆芸Ⅰ	7	2	後	実技	228	
25242		漆芸科学	2	2	後	講義	249		
必修専攻 専門関連		25102	絵画(工)	2	1	前	演習	251	
		25103	彫刻(工)	2	1	前	演習	252	
		25104	デザイン(工)	2	1	前	演習	253	
選択専攻 専門関連		25131	陶磁史	2	1~4	前	講義	318	
		25132	染織工芸史	2	1~4	前	講義	319	
	25151	生活造形論	2	1~4	後	講義	320		
	25152	装飾論	2	1~4	後	講義	321		
	25171	漆芸論	2	1~4	後	講義	322		
25177	色彩論	2	1~4	前	講義	326			

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24163	図法及び製図A	2	1～4	前	演習	330
		24164	図法及び製図B	2	1～4	後	演習	331
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320		
25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321		
25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322		
25177	色彩論	2	1～4	前	講義	326		
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 29 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁		
絵 画	必修主要	21311	日本画Ⅲ	14	3	通年	実技	18		
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	32		
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	43		
		21291	古美術研究	4	2	後	演習	44		
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	255		
		21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	256		
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	257		
		21434	視覚伝達概論A	2	1～4	前	演習	258		
		21435	視覚伝達概論B	2	1～4	後	演習	259		
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前	講義	260		
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	261		
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	262		
		21439	装飾概論A	2	1～4	後	講義	263		
		21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	264		
		彫 刻	必修主要	22112	彫刻ⅠB	7	1	後	実技	—
				22212	彫刻Ⅱ	13	2	通年	実技	—
				22312	彫刻Ⅲ	13	3	通年	実技	63
				22231	彫刻特論Ⅰ	2	2	通年	講義	69
				22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	70
				22291	古美術研究	4	2	後	演習	71
専攻専門 関連	22207		デザインB	2	2	前	演習	—		
	22208		工芸B	2	3	前	演習	74		
選択専攻 専門関連	22132		美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75		
	22133		美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講		
	22421		西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	265		
	22422		日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	266		
	22423		クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後	講義	267		
	22424		プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	268		
	22425		環境造形概論	2	1～4	前	講義	269		
	22426		陶磁史概説B	2	1～4	前	講義	270		
	22427		染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	271		
	22428		生活造形概論B	2	1～4	後	講義	272		
	22429		装飾概論B	2	1～4	後	講義	273		
	22430		漆芸概論B	2	1～4	後	講義	274		
芸 術 学	必修主要	23112	実技研究	5	1	後	実技	77		
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	84		
		23217	学外研究	4	2	後	演習	85		
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91		
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91		
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	92		
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93		
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94		
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95		
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	96		
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96		
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	97		
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97		
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98		
		23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100		
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102		
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103		
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104		
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105		
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講		
23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106				
23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107				
23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	108				

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 29 年度入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁		
芸術学	選択主要	23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	109		
		23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	110		
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	後	講義	111		
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	112		
	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293		
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294		
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講		
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295		
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296		
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297		
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298		
		23142	現代芸術論 A	2	1～4	後	講義	299		
		23143	現代芸術論 B	2	1～4	前	講義	300		
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301		
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302		
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303		
		23148	西洋美術史 A	2	1～4	前	講義	304		
		23149	西洋美術史 B	2	1～4	後	講義	305		
		23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	274		
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	277		
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286		
		23323	工芸演習	4	2～3	通年	演習	289		
		23443	陶磁史概説 C	2	1～4	前	講義	275		
		23444	染織工芸史概説 C	2	1～4	前	講義	276		
		23445	生活造形概論 C	2	1～4	後	講義	277		
		23446	装飾概論 C	2	1～4	後	講義	278		
		23447	漆芸概論 C	2	1～4	後	講義	279		
		デザイン	必修主要	24341	デザインⅢ A	7	3	前	実技	133
				24342	デザインⅢ B	7	3	後	実技	139
				24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
				24391	学外研究	4	3	後	演習	146
			選択専攻 専門関連	24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
24133	日本建築史			2	1～4	後	講義	309		
24153	クラフトデザイン計画			2	1～4	後	講義	310		
24161	プロダクトデザイン論			2	1～4	後	講義	311		
24162	ビジュアルデザイン論			2	1～4	前	講義	312		
24171	視覚伝達論 A			2	1～4	前	演習	313		
24172	視覚伝達論 B			2	1～4	後	演習	314		
24181	環境造形論			2	1～4	後	講義	325		
24182	色彩論			2	1～4	前	講義	326		
24184	人間工学			2	1～4	後	講義	327		
24251	図学			2	1～4	前	演習	316		
24252	CG基礎			2	2～4	後	演習	317		
選択共通 専門関連	25131			陶磁史	2	1～4	前	講義	318	
	25132			染織工芸史	2	1～4	前	講義	319	
	25151			生活造形論	2	1～4	後	講義	320	
	25152			装飾論	2	1～4	後	講義	321	
	25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322			

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 29 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁	
工芸	必修主要	25321	染Ⅱ	14	3	通年	実技	173	
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190	
		25322	染織特別演習	2	3	後	演習	208	
		25311	陶芸Ⅱ	14	3	通年	実技	214	
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	227	
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235	
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	250	
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318	
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319	
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320	
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321	
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328	
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322	
		25172	絵画史概説	2	1～4	後	講義	323	
		25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	休講	
		25174	現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	324	
		25175	現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	325	
	25176	沖縄美術工芸史概説	2	1～2	後	講義	休講		
	全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
			22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
			22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
			23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
			23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
			23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
			23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
23137			工芸史	2	1～4	前	講義	296	
23138			絵画史	2	1～4	後	講義	297	
23141			書道史	2	1～4	前	講義	298	
23142			現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299	
23143			現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300	
23145			一般芸術学	2	1～4	前	講義	301	
23146			日本美術史	2	1～4	前	講義	302	
23147			東洋美術史	2	1～4	後	講義	303	
23148			西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304	
23149			西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305	
24132			西洋建築史	2	1～4	後	講義	308	
24133			日本建築史	2	1～4	後	講義	309	
24153			クラフトデザイン計画	2	1～4	前	講義	310	
24161			プロダクトデザイン論	2	1～4	前	演習	311	
24162			ビジュアルデザイン論	2	1～4	後	演習	312	
24171			視覚伝達論A	2	1～4	前	講義	313	
24172			視覚伝達論B	2	1～4	前	講義	314	
24181			環境造形論	2	1～4	後	講義	315	
24182			色彩論	2	1～4	前	演習	326	
24184			人間工学	2	2～4	後	演習	327	
24251			図学	4	1～4	通年	演習	316	
24252	CG基礎	2	1～4	後	演習	317			
25162	図法及び製図	2	2～4	後	演習	328			
自由科目	21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335		
	24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336		

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 28 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵画	必修主要	21311	日本画Ⅲ	14	3	通年	実技	18
		21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	20
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	32
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	39
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	256
		21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	256
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	257
		21434	視覚伝達概論A	2	1～4	前	演習	258
		21435	視覚伝達概論B	2	1～4	後	演習	259
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前(集中)	講義	260
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	261
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	262
		21439	装飾概論A	2	1～4	後(集中)	講義	263
		21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	264
彫刻	必修主要	22311	彫刻Ⅲ	14	3	通年	実技	63
		22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	68
		22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	70
	選択専攻 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22421	西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	265
		22422	日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	266
		22423	クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後(集中)	講義	267
		22424	プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	268
		22425	環境造形概論	2	1～4	前	講義	269
		22426	陶磁史概説B	2	1～4	前(集中)	講義	270
		22427	染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	271
		22428	生活造形概論B	2	1～4	後	講義	272
		22429	装飾概論B	2	1～4	後(集中)	講義	273
22430	漆芸概論B	2	1～4	後	講義	274		
芸術学	必修主要	23411	卒業論文	5	4	通年	演習	86
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	92
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	96
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	97
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98
		23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	通年	講義	107
		23439	芸術学特講	2	2～4	通年	講義	108
	23440	東洋美術史特講	2	2～4	通年	講義	109	
	23228	日本美術史特講	2	2～4	通年	講義	110	
	23441	西洋美術史特講	2	2～4	通年	講義	111	
	23227	比較芸術学特講	2	2～4	通年	講義	112	
	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 28 年度入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁
芸 術 学	選択専攻 専門関連	23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	274
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	283
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286
		23323	工芸演習	4	2～3	通年	演習	289
		23443	陶磁史概説C	2	1～4	前	講義	275
		23444	染織工芸史概説C	2	1～4	前	講義	276
		23445	生活造形概論C	2	1～4	後	講義	277
		23446	装飾概論C	2	1～4	後(集中)	講義	278
		23447	漆芸概論C	2	1～4	後	講義	279
23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98		
デ ザ イ ン	必修主要	24341	デザインⅢA	7	3	前	実技	133
		24342	デザインⅢB	7	3	後	実技	139
		24431	デザインⅣ	15	4	通年	実技	144
		24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
		24391	学外研究	4	3	後	演習	146
	選択専攻 専門関連	24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
	24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317	
	選択共通 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
25132		染織工芸史	2	1～4	前	講義	319	
25151		生活造形論	2	1～4	後	講義	320	
25152		装飾論	2	1～4	後	講義	321	
25171		漆芸論	2	1～4	後	講義	322	
工 芸	必修主要	25433	染Ⅲ	15	4	通年	実技	182
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190
		25434	織Ⅲ	15	4	通年	実技	202
		25222	染色化学	2	2	後	講義	207
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	208
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	223
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235
		25442	漆芸Ⅲ	15	4	通年	実技	246
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	250
	25391	古美術研究	4	3	後	演習	166	
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
25172		絵画史概説	2	1～4	通年	講義	323	
25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	休講		
25174	現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	324		
25175	現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	325		

平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 28 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学 I (骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学 II (筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論 A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論 B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史 A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史 B	2	1～4	後	講義	305
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論 A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論 B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327		
24251	図学	2	1～4	前	演習	316		
24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317		
25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328		
自由科目	デザイン	24203	絵画 C	3	2～4	通年	演習	334
		24204	彫刻 C	4	2～4	前	演習	334
		24205	工芸 D	4	2～4	通年	演習	334
	彫刻	22203	絵画 A	3	2～4	通年	演習	334
		22204	デザイン B	3	1～4	通年	演習	334
		22205	工芸 B	4	2～4	通年	演習	334
	工芸	25203	絵画 D	3	2～4	通年	演習	334
		25204	彫刻 D	4	2～4	前	演習	334
		25205	デザイン D	3	1～4	通年	演習	334
	芸術学	23101	絵画 B	3	2～4	通年	演習	334
		23102	彫刻 B	4	2～4	前	演習	334
		23103	デザイン C	3	1～4	通年	演習	334
		23104	工芸 C	4	2～4	通年	演習	334
	絵画	21203	彫刻 A	4	2～4	前	演習	334
		21204	デザイン A	3	1～4	通年	演習	334
21205		工芸 A	4	2～4	通年	演習	334	
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成27年度以前入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁
絵画	必修主要	21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	20
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	39
彫刻	必修主要	22311	彫刻Ⅲ	14	3	通年	実技	63
		22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	68
芸術学	必修主要	23228	日本美術史特講	2	2～4	前	講義	111
		23411	卒業論文	5	4	前年	演習	86
		23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105
	23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106	
	23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107	
	選択 専門関連	23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	280
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	283
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286
	デザイン	必修主要	24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習
24341			デザインⅢA	7	3	前	実技	133
24342			デザインⅢB	7	3	後	実技	139
24391			学外研究	4	3	後	演習	146
24431			デザインⅣ	15	4	通年	実技	144
工芸	必修主要	25321	染Ⅱ	14	3	通年	実技	173
		25421	染Ⅲ	15	4	通年	実技	182
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190
		25431	織Ⅲ	15	4	通年	実技	202
		25232	繊維科学	2	2	後	講義	206
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249
		25311	陶芸Ⅱ	14	3	通年	実技	214
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	223
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	227
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235
		25441	漆芸Ⅲ	15	4	通年	実技	246
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	208
25391	古美術研究	4	3	後	演習	166		
全専攻共通	選択 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	2～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	後	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327

平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成27年度以前入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻 共通	選択 専門関連	24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305		
自由科目		21201	絵画	3	2～4	通年	演習	333
		22201	彫刻	4	2～4	前	演習	333
		24201	デザイン	3	1～4	通年	演習	333
		25201	工芸	4	2～4	通年	演習	333
		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

実務経験のある教員による授業科目（実践的教育を行う授業）

対象専攻等	区分	授業科目名	単位数	授業区分	教員名	職	担当形態	実務経験等	掲載頁		
学部	選択科目 共通専門 関連科目	ビジュアルデザイン概論 ビジュアルデザイン論	2	講義	笹原浩造	准教授	単独	アートディレクター、化粧品会社宣 伝部勤務（1986～2010年）	257 312		
		視覚伝達概論A 視覚伝達論A（印刷）	2	演習	赤嶺雅	教授	単独	グラフィックデザイナー、民間企業 （情報通信機械器具製造業、印刷業） デザイン室勤務（1986～1992年）	258 313		
		視覚伝達概論B 視覚伝達論B（映像）	2	演習	仲本賢	教授	単独	映像作家	259 314		
		環境造形概論 環境造形論	2	講義	宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等 勤務（1994～2002年）	269 315		
		日本美術史	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	302		
		西洋美術史B	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	305		
		CG基礎	2	演習	真喜志康一	非常勤講師	単独	デザイン事務所経営	317		
絵画専攻	必修科目 主要科目	日本画Ⅳ	15	実技	平山英樹	教授	複数	日本画家	20		
					香川亮	准教授		画家			
					関谷理	講師		日本画家			
		油画Ⅳ	15	実技	田中睦治	教授	複数	美術家	39～41		
					知花均	教授		版画家			
					高崎賀朗	准教授		画家			
彫刻専攻	必修科目 主要科目	彫刻Ⅳ	15	実技	波多野泉	教授	複数	彫刻家	68		
					砂川泰彦	教授		彫刻家			
					河原圭佑	講師		彫刻家			
					長尾恵那	講師		彫刻家			
		彫刻特論Ⅱ	2	講義	波多野泉	教授	オムニバス	彫刻家	70		
					砂川泰彦	教授		彫刻家			
					河原圭佑	講師		彫刻家			
芸術学専攻	選択科目 主要科目	芸術学演習Ⅰ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	92		
		芸術学演習Ⅱ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	93		
		日本美術史演習Ⅰ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	94		
		日本美術史演習Ⅱ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	95		
		芸術学特講	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	108		
		日本美術史特講	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	110		
デザイン専攻	必修科目 主要科目	デザインⅢA	7	実技	笹原浩造	准教授	複数	アートディレクター、化粧品会社宣 伝部勤務（1986～2010年）	133 134		
					高田浩樹	准教授		単独		デザイン事務所主宰	133 135
					又吉浩	准教授	単独	アニメーション作家	133 136		
					宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等 勤務（1994～2002年）	133 137		
					座波嘉克	教授	複数	プロダクトデザイナー	133 138		
					(インターンシップ)			複数	インターンシップA・B	133	
					デザインⅢB	7	実技	又吉浩	准教授	単独	アニメーション作家
		高田浩樹	准教授	単独				デザイン事務所主宰	133 141		
		仲本賢	教授	複数				映像作家	139 142		
		又吉浩	准教授					映像作家			
		赤嶺雅	教授	複数				グラフィックデザイナー、民間企業 （情報通信機械器具製造業、印刷業） デザイン室勤務（1986～1992年）	139 143		
		(インターンシップ)						複数		インターンシップC・D	139
		工芸専攻	必修科目 主要科目	染Ⅲ				15	実技	渡名喜はるみ	教授
					名護朝和	教授	染色家				
織Ⅲ	15			実技	真栄城興茂	教授	複数	染織家、織工房主宰	202 205		
					花城美弥子	准教授		染織家			
陶芸Ⅲ	15			実技	山田聡	教授	複数	陶芸家	223		
					島袋克史	講師		陶芸家			
漆芸Ⅲ	15			実技	糸数政次	教授	複数	漆芸家、県工芸振興センター勤務 （1990～2013年）	246～248		
					水上修	教授		漆芸家			
		當眞茂	准教授		漆芸家						

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21110	絵画基礎	5単位 前期	1	実技	絵画専攻教員 非常勤講師

■テーマ 基礎的かつ一般的、包括的な絵画表現力（映像メディア表現含む）の養成

■授業概要

絵画基礎では、複数の実技実習を通して絵画専攻（油画・日本画）における今後の絵画創作研究の基盤となる基礎的かつ一般的、包括的な絵画表現力（映像メディア表現含む）の養成及び各実習での知識、技術の修得を行う。

■到達目標

- ・作品制作を通して基礎的かつ一般的、包括的な絵画表現力（映像メディア表現含む）を身につけ、各実習での知識、技術の修得を行うことができる。
- ・制作意図を整理することができ、作品制作について積極的に探究し完成することができる。
- ・論理的に口頭での発表や記述を行うことができ、他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

■授業計画・方法

1. 油画：ガイダンス 素描「人体」/日本画：課題説明「日本画制作Ⅰ（植物制作）」
2. 油画 素描「人体」作品制作：ヌード・クロッキー/日本画「着色写生」制作
3. 油画 素描「人体」作品制作：ヌード・デッサン（立位）/日本画「日本画制作」制作
4. 油画 素描「人体」作品制作：ヌード・デッサン（座位）、ディスカッション/日本画「日本画制作」、講評
5. パネル実習：ガイダンス「授業で使用する木製パネルの制作」
6. 木材の切り出し：課題説明、制作、木材の組み立て：工程説明、制作
7. 木製パネル制作修了、講評、レポート作成
8. 写真実習：ガイダンス「一光をとらえる」（一眼レフ・フィルムカメラによる撮影、プリント現像実習）」
9. フィルム現像①～③
10. 印画紙へのプリント①～⑧
11. 作品制作、写真作品の仕上げ（プリント修正技術とマットへの張り込み）、ディスカッション、片付け
12. 様々な素材・様々な表現：ガイダンス「様々な素材と様々な絵画技法（写真技法含む）による絵画制作」
13. 写真技法及び様々な絵画技法研究（写真技法、フォトグラム及び絵画技法①～⑥）
14. 絵画技法（コラージュ、着色）による課題制作
15. 課題作品完成、ディスカッション、成果作品及びコメントペーパー提出、片付け

※定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・各実技実習に必要な画材・素材・備品・道具・機材・資料等は、授業前日までに準備を行う。
- ・授業以外では、図書館等を利用し積極的な情報等の収集を行い授業内容について理解を深める。
- ・各実技実習での成果物、成果作品、授業資料等は大切に保管する。

■成績評価の方法・基準

□方法 各実習での成果物・成果作品60%、平常点（制作の取り組み）20%、コメントペーパー20%による総合評価。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 □テキスト 授業内にプリント「人体素描」「膠の使用について」「素材の特性 - 絵具」「素材の特性 - 基底材」「写真演習の手引き」「様々な絵画技法」「パネル実習」等を配布する。

□参考文献 『安井曾太郎素描集』日動出版部、1975年、『Leonard Da Vinci, 1452-1519』Taschen, 2003年、『アンドリュー・ワイエス展』日本経済新聞社、1978年、『世界素描大系Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ』モスコヴィツ・アイラ、講談社、1978年、『基礎から学ぶ日本画 日本画演習Ⅰ・Ⅱ』（畠中光亨 京都造形芸術大学）、『日本画の表現技法』（石踊紘一、高寄三朗 美術出版社）、『マックス・デルナー 絵画技術体系』（ハンス・ゲルト・ミュラー改訂、佐藤一郎訳 美術出版社）、『アンセル・アダムの写真術』岩崎美術社、『BY ARTISTS・画家たちの写真』東京都写真美術館、『アートスクールシリーズ ミクストメディア 用語と基礎知識』著者 マイカル・ライト(Michael Wright)、訳者 石関一夫、美術出版社、1995年、『木材加工系実技教科書』（独立行政法人 雇用・能力開発機構 職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター）□参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品等

【実習名】 素描

【期間】 4月8日(月)～4月19日(金)

【教室】 油画1年実習室

【担当】 高崎 賀朗、知花 均、田中 睦治

【課題】 「人体」

【授業概要】 (テーマ) 「人体」を主題として、木炭・鉛筆等を描写素材に用いた点・線・面及び色彩(モノクローム)の要素による素描制作を行う。まず、ヌード・クロッキーとデッサンを通して人体の「動き・プロポーション・形態・量感」と「骨格・筋肉・皮膚」の構造について追求する。つぎに、「人体」における「遠近・陰影・色彩・質感・空間」の性質や関係を理解する。そして、自身の素描表現の在り方について、素描制作を通して考察を深め絵画表現における基礎的な造形感覚と描写表現力を養う。

【到達目標】

- ・「人体」の「動き・プロポーション・形態・量感」と「骨格・筋肉・皮膚」の構造を観察・描写により追求できる。
- ・「人体」において「遠近・陰影・色彩・質感・空間」の性質や関係について、観察・描写を通して理解できる。
- ・自身の素描表現の在り方について、素描制作を通して考察を深めることができる。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、会場設営、課題説明、講義「人体素描」、材料準備
2. 素描「人体」作品制作/ヌード・クロッキー(立位・自由ポーズ)：「動き」、「形態」、「量感」
3. 素描「人体」作品制作/ヌード・デッサン(立位ポーズ)：「構図」、「動き」、「骨格」、「遠近」
4. 素描「人体」作品制作/ヌード・デッサン(立位ポーズ)：「プロポーション」、「筋肉」、「陰影」
5. 素描「人体」作品制作/ヌード・デッサン(立位ポーズ)：「形態」、「皮膚」、「色彩」
6. 素描「人体」作品制作/ヌード・デッサン(立位ポーズ)：「量感」、「質感」
7. 素描「人体」作品制作/ヌード・デッサン(立位ポーズ)：「空間」
8. 素描「人体」作品制作/ヌード・デッサン(立位ポーズ) /ディスカッション、作品提出
9. 素描「人体」作品制作/ヌード・クロッキー(座位・自由ポーズ)：「動き」、「形態」、「量感」
10. 素描「人体」作品制作/ヌード・デッサン(座位ポーズ)：「構図」、「動き」、「骨格」、「遠近」
11. 素描「人体」作品制作/ヌード・デッサン(座位ポーズ)：「プロポーション」、「筋肉」、「陰影」
12. 素描「人体」作品制作/ヌード・デッサン(座位ポーズ)：「形態」、「皮膚」、「色彩」
13. 素描「人体」作品制作/ヌード・デッサン(座位ポーズ)：「量感」、「質感」
14. 素描「人体」作品制作/ヌード・デッサン(座位ポーズ)：「空間」
15. 素描「人体」作品制作/ヌード・デッサン(座位ポーズ) /ディスカッション、作品提出

※定期試験は実施しない。

【成果物】 成果作品：素描「人体」ヌード・クロッキー、ヌード・デッサン

【評価の方法・基準】

□方法 成果作品60%、平常点(制作の取り組み)40%による総合評価

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

□テキスト 授業内にプリント「人体素描」を配布する。

□参考文献 『安井曾太郎素描集』日動出版部、1975年、『Leonard Da Vinci, 1452-1519』Taschen、2003年、『アンドリュウ・ワイエス展』日本経済新聞社、1978年、『世界素描大系 I, II, III, IV』モスコヴィツ・アイラ、講談社、1978年

- 【実習名】 日本画制作 I
- 【期 間】 4月 8日(月)～ 4月 19日(金)
- 【教 室】 日本画1年生実習室(美術棟3階)
- 【担 当】 関谷理、香川亮、平山英樹
- 【課 題】 日本画制作 I (植物制作)
- 【授業概要】

(テーマ)日本画制作 I では日本画においての一般的、包括的な絵画表現能力と発想力の養成を目指し、その土台となる基礎的な実習を行います。写生によるモチーフの観察から、写生を和紙にトレースし、その和紙を着色することによって日本画の伝統的な画材に触れながら、従来の日本画の伝統的制作プロセスを学ぶことにより日本画の基礎的技術の習得、その後の現代絵画の包括的絵画領域の実習につなげていきます。

まず各自の植物着色(15号)を画用紙に水彩絵具で行います。モチーフを観察、描写することにより日本画制作において重要な「線・面」の意識の土台となる、「形態・質感・色彩・空間」の関係を学びます。植物着色を完成後、その作品を和紙に線でトレースし、形態や量感、陰影の意識から「線・面」の意識への理解を深め、日本画制作につなげていきます。また、日本画の画材(岩絵具、和紙、膠)の説明と使用方法(ドーサ引き、下地塗りなど)の指導を同時に行っていく、画材の面からも日本画への理解を養っていきます。

【到達目標】

- ・課題におけるテーマを理解し、積極的に画材を用いながら意欲的に制作することができる。
- ・課題において自己の研究テーマを明確に設定しながら、作品を完成することができる。
- ・課題制作に対して論理的に研究成果の発表ができ、他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

【授業計画・方法】

●着色写生

- 第1回 ○課題説明 モチーフ、制作準備
- 第2回 ○制作開始 全体の構図を考えスケッチブックに下図をつくる
- 第3回 ○制作 15号にデッサン
- 第4回 ○制作 デッサン完成後、水彩絵具で着色

●日本画制作

- 第5回 ○図書館見学 図書館所蔵の資料図書による古今東西の日本画作品の紹介、解説
- 第6回 ○課題説明 和紙、岩絵具など画材説明
- 第7回 ○制作準備 ドーサ液を作る 和紙にドーサ引き
- 第8回 ○制作 和紙を15号パネルに張る
- 第9回 ○制作 下地制作 和紙に下地として胡粉を塗る 胡粉の説明
- 第10回 ○制作 着色写生を和紙にトレース
- 第11回 ○制作 トレースを墨でなぞる 墨の説明
- 第12回 ○制作 岩絵具による着色 岩絵具による下地制作
- 第13回 ○制作 岩絵具による着色 植物の表現
- 第14回 ○制作 制作における構成の指導 完成にむけての課題の把握
- 第15回 ○講評 制作修了 作品講評

【成果物】

15号の着色写生1枚。15号の日本画作品1枚。

【評価の方法・基準】

□方法

作品の完成度(50%)、平常点(50%) 平常点は授業への参加状況、授業への積極性、画材への理解など総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(作品)等】

□テキスト プリント「膠の使用について」「素材の特性-絵具」「素材の特性-基底材」 教員が配布

□参考文献 『基礎から学ぶ日本画 日本画演習 I・II』(畠中光亨 京都造形芸術大学) 絵画学科室

『日本画の表現技法』(石踊紘一、高寄三朗 美術出版社) 絵画学科室

『マックス・デルナー 絵画技術体系』(ハンス・ゲルト・ミュラー改訂、佐藤一郎訳 美術出版社) 絵画学科室

□参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 パネル実習

【期 間】 4月 22日(月)～ 4月 26日(金)

【教 室】 木工工房(首里崎山キャンパス デザイン棟1階)

【担 当】 非常勤講師、関谷理(絵画専攻)

【課 題】 授業で使用する木製パネルの制作

【授業概要】

(テーマ)木製パネルは絵画表現の支持体となります。使用目的に合った素材、強度、耐久性、重量、移動性などについて考慮し、的確に制作する必要があります。授業では、「木」の基礎知識から実際の製材方法、使用する工具の安全で正しい使用方法について学びながらパネル製作に必要な技能を習得します。

【到達目標】

- ・「木」の基礎知識から実際の製材方法を意欲的に学習し、パネル製作において使用目的に合った素材、強度、耐久性、重量、移動性などを考慮した構造を考えることができる。
- ・それぞれの道具を正しい使用方法で安全かつ的確に使用し、パネル製作を行なうことができる。
- ・個々の今後の授業目的にあった構造上問題のないパネルを、期間内に制作することができる。
- ・パネル製作を通して絵画の支持体における役割を学習し、今後の自身の研究、制作に役立てることができる。

【授業計画・方法】

●木材の切り出し

- 第1回 ○課題説明 パネル製作の説明 使用する道具の説明
- 第2回 ○制作開始 手押しカンナ機による材の矩出し
- 第3回 ○制作 丸ノコ昇降盤による材の幅、厚みの粗切り
- 第4回 ○制作 自動カンナ盤による材の厚み出し
- 第5回 ○制作 材の長さ墨付け 手鋸による材の長さ切り
- 第6回 ○制作 木工削り台を使用して、手カンナによる材の長さ調節 矩出し

●木材の組み立て

- 第7回 ○制作 組み立て位置 木ネジ位置の墨付け
- 第8回 ○制作 木工用ボンドならびにガンタッカーを使用し木枠部分の仮組み
- 第9回 ○制作 電動ドリルによる木ネジの埋め込み部分ならびに下穴の加工
- 第10回 ○制作 電動ドリルによる木ネジの打ち込み、木枠部分の組み上げ
- 第11回 ○制作 パネルソーを用いてパネル版のカット
- 第12回 ○制作 仮釘位置の墨付け
- 第13回 ○制作 仮釘によるパネルと木枠の接着
- 第14回 ○制作 手カンナによるパネル板の余分の切り落とし 仮釘を外して完成
- 第15回 ○講評 制作修了 レポート作成

【成果物】油画学生はF50号相当(117.0×91.0cm)パネル2枚、日本画学生はF30号相当(91.0×72.7cm)とP30号相当(91.0×65.2cm)パネルを各1枚。各自レポート提出。

【評価の方法・基準】

□方法

成果の完成度(50%)、平常点(30%)、レポート(20%) 平常点は授業への参加状況、授業への積極性、道具への理解など総合的に判断する。

□基準

「到達目標」を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

□テキスト『絵画基礎 パネル実習』 教員が配布

□参考文献『木材加工系実技教科書』(独立行政法人 雇用・能力開発機構 職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター) 木工室

□参考資料 パネルの完成品、製材木材

【学生準備】作業着、スケッチブック、筆記用具、レポート用A4ノート、工具一式(事前にまとめて購入します)など。

※注1 作業着は安全性に考慮し袖口の締まったもの。半袖が望ましい。

※注2 安全のために靴を履いてくること。草履、ヒールの高い履物は禁止。

【専攻準備】材料(杉材、しな合板、木工用ボンド、コーススレット、木工用パテなど)、工具など。

【実習名】写真实習

【期 間】 5月 6日(月)～ 5月 24日(金)

【教 室】写真工房 (美術棟地下1階)

【担 当】田中睦治・根間智子

【課 題】

- ・一光をとらえるー (一眼レフ・フィルムカメラによる撮影、プリント現像実習)

【授業概要】

- ・絵画基礎表現に必要な一光を多角的に捉えるーをテーマに、アナログ一眼レフ・フィルムカメラによる撮影と現像、紙焼きプリント実習を元に基礎的撮影技術とプリント技術を学ぶ。

【到達目標】

- ・スライドゼミ講義「写真の誕生と写真家たち」を受講し、近代写真の成り立ちを理解できる。
- ・全光、逆光、バランスの良い斜光などを意識しながら、立ち会う光の成り立ちを意識し写真で捉えることができる。
- ・撮影実習と焼き付け (プリント) 実習を通じ、条件に応じた適切な撮影技術と写真の基本的な原理を理解し技術を習得できる。
- ・絵画平面作品や版表現への応用など幅広く使用される写真の表現に関する基礎力を身につけることができる。

【授業計画・方法】

- 1 ガイダンス・授業説明・暗室・機材の説明・カメラとフィルムの説明・撮影の仕方説明
- 2 条件に対応した撮影実習
- 3 フィルム現像① (薬品の準備含む) /スライドゼミ・講義「写真の誕生と写真家たち」
- 4 フィルム現像②/撮影の続き
- 5 フィルム現像③/
- 6 印画紙へのプリント①: 印画紙の特性理解/フォトグラム制作 (薬品の準備含む)
- 7 印画紙へのプリント②: 撮影フィルム・コンタクトプリント制作
- 8 印画紙へのプリント③: プrintの技術 (基本編/ストレートプリント)・既習得者は応用表現に入る
- 9 印画紙へのプリント④: プrint/フィルムカットの選定・作家写真集鑑賞
- 10 印画紙へのプリント⑤: プrintの技術 (応用技術デモンストレーション)
- 11 印画紙へのプリント⑥: 作品制作
- 12 印画紙へのプリント⑦: 作品制作
- 13 印画紙へのプリント⑧: 作品制作 (プリント最終日)
- 14 作品制作写真作品の仕上げ (プリント修正技術とマットへの張り込み)
- 15 ディスカッション/片付け

※学生の準備として、エプロン、タオル、作業着が必要。また一眼レフ・フィルムカメラ、三脚を持っている学生は持参が望ましい。(基本的に機材はすべて用意してある。)

【成果物】

- 提出作品は一光をとらえるーをテーマにした、フィルム撮影引き伸ばしプリント作品2点、フォトグラム作品1点、制作ファイル1冊 (フォトグラムを含む)

【評価の方法・基準】

- 方法 提出作品と制作ファイルの提出による基礎技術の意義の理解、技術の習得状況、作品の評価が70%平常点 (授業への取り組み状況、制作意欲、制作過程の理解)を30パーセントの評価対象とする。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献 (作品) 等

□教科書

- テキスト ガイダンス時に一人に1部配布
- 参考文献 ガイダンス時に一人に1部配布
- 参考資料 応用表現の理解として写真集の提示を行う

- 【教室】 石膏室、写真工房
 【担当】 高崎 賀朗、関谷 理、金城 徹、非常勤講師
 【課題】 様々な素材と様々な絵画技法・写真技法による絵画制作

【授業概要】 (テーマ) 絵画制作にとって筆による描写だけでなく、様々な素材と様々な絵画技法・写真技法に親しみ、技法・技術を拓げることは、絵画制作におけるテクスチャーの意味を考えるうえで大切である。授業では、20世紀に実験、展開、応用された絵画技法・写真技法を体験し作品素材を制作する。偶然性を取り入れ思わぬ効果を引き出した作品素材と幅広い身近な素材とを組み合わせパネル上にコラージュや着彩などの絵画技法を用いた絵画作品の制作を行う。

【到達目標】

- ・様々な絵画技法(写真技法含む。)を実践体験し、絵画表現について理解を深め作品制作を行うことができる。
- ・素材と技法の応用表現研究となる課題制作について理解し絵画作品として表現することができる。
- ・論理的に口頭での発表や記述を行うことができ、他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

【授業計画・方法】

1. 授業説明, 準備/作品制作A: 写真技法, フォトグラム/ 作品制作B: 絵画技法, ①フロッタージュ, ②パチック
2. 作品制作A: 写真技法, フォトグラム/作品制作B: 絵画技法, ③デカルコマニー, ④スパッターリング
3. 授業説明, 準備/作品制作A: 絵画技法, ①フロッタージュ, ②パチック/作品制作B: 写真技法, フォトグラム
4. 作品制作A: 絵画技法, ③デカルコマニー, ④スパッターリング/作品制作B: 写真技法, フォトグラム
5. 作品制作A: 絵画技法, ⑤マーブリング/作品制作B: 絵画技法, ⑥モノタイプ
6. 作品制作A: 絵画技法, ⑥モノタイプ /作品制作B: 絵画技法, ⑤マーブリング
7. 写真技法及び様々な絵画技法研究(写真技法, フォトグラム及び絵画技法①～⑥)
8. 写真技法及び様々な絵画技法研究(写真技法, フォトグラム及び絵画技法①～⑥)
9. 写真技法及び様々な絵画技法研究(写真技法, フォトグラム及び絵画技法①～⑥)
10. ・写真技法及び様々な絵画技法研究/講義: 「20世紀の多様な表現」
 - ・課題「様々な絵画技法及び写真技法による作品と身近な素材の再構成による絵画制作」説明、準備
 - ・絵画技法(コラージュ, 着彩)による課題制作: 発想及び構想計画
11. 絵画技法(コラージュ, 着彩)による課題制作: コンセプトの立案
12. 絵画技法(コラージュ, 着彩)による課題制作: 制作途中作品の中間チェック
13. 絵画技法(コラージュ, 着彩)による課題制作: 素材と技法の応用, 展開
14. 絵画技法(コラージュ, 着彩)による課題制作: 仕上げ, 完成, コメントペーパー作成
15. 会場設営, ディスカッション, 成果作品及びコメントペーパー提出, 片付け
 ※定期試験は実施しない。

【成果物】 フォトグラム作品、様々な絵画技法による作品ファイル、課題作品

【評価の方法・基準】

□方法 成果作品(フォトグラム作品、様々な絵画技法による作品ファイル、課題作品)60%、平常点(制作の取り組み)40%による総合評価

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- 教科書 □ テキスト 授業内にプリント「写真演習の手引き」、「様々な絵画技法」を配布する。
- 参考文献 『アートスクールシリーズ ミクストメディア 用語と基礎知識』著者 マイカル・ライト(Michael Wright), 訳者 石関一夫, 美術出版社, 1995年
- 参考資料: 学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21112	日本画Ⅰ	6単位 後期	1	実技	関谷理(担任) 非常勤講師 平山英樹 香川亮

■テーマ

日本画の画材に触れながら、絵画における包括的な絵画表現能力と発想力の養成と実践を行う。

■授業概要

日本画Ⅰでは「絵画基礎」での経験を踏まえた一般的、包括的な絵画表現能力と発想力の養成を目指します。人体デッサンにおけるドローイング制作、制作Ⅱによる包括的絵画領域の実習、制作Ⅲによる現代絵画の映像的な絵画表現の実践を行います。人体デッサンにおいてはムービングによる動的な画像をドローイング表現に展開することで絵画表現と発想力の養成を目的とし、制作Ⅱではその動的イメージから独創的な絵画表現への発展を目指します。日本画制作Ⅲでは日常をテーマに実在の風景の写真または動画画像の転写による制作を行うことで、絵画における一般的包括的な内容を網羅し現代における絵画表現の発展を目的としています。

■到達目標

- ・課題におけるテーマを理解し、作品制作において課題との関連性を説明し、作品を完成することができる。
- ・課題において自己の研究テーマを明確に設定し、制作において積極的に探究することができる。
- ・課題制作に対して論理的に研究成果の発表ができ、他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

■授業計画・方法

●人体デッサン（10/21～10/25）

- 第1回 ○課題説明 人体デッサンにおけるルール、マナー、セッティング
- 第2回 ○制作開始 クロッキー、ドローイング
- 第3回 ○制作 ポーズによるデッサン
- 第4回 ○講評 制作修了 作品講評

●人体デッサン（11/4～11/8）

- 第5回 ○制作開始 ムービングによるドローイング
- 第6回 ○制作 ポーズによるデッサン
- 第7回 ○講評 制作修了 作品講評

●制作Ⅱ・人体制作（11/11～12/6）

- 第8回 ○課題説明 制作準備 デッサン、ドローイングを元にした下図制作
- 第9回 ○制作 胡粉、岩絵具による下地制作

●制作Ⅲ・風景制作（1/6～1/27）

- 第10回 ○制作 岩絵具による着彩
- 第11回 ○講評 制作修了 作品講評
- 第12回 ○課題説明 制作準備 各自用意した画像から下図制作

- 第13回 ○制作 胡粉、岩絵具による下地制作

- 第14回 ○制作 岩絵具による着彩

- 第15回 ○講評 制作修了 作品講評

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・各課題が始まる前週までに、課題カリキュラムを説明し掲示、配布を行うのでその内容に応じて各自が準備してください。
- ・各課題について講評会を行い、その際成果と研究報告を行ってください。講評会后、作品の提出を行い、提出されたものが成績の採点対象となります。
- ・普段から授業内容に即した準備（課題のための取材、資料のファイリング、風景におけるスケッチなど）を自主的に行ってください。講評会においての成果と報告に関連し、提出があった場合は学習意欲の面から評価の対象となります。
- ・テキストについて、各回の授業の終了時に次回の授業箇所を指示するので、次回授業までに十分に読み込むこと。

■成績評価の方法・基準

□方法 作品の完成度(50%)、平常点(50%) 平常点は授業への参加状況、授業への積極性、画材への理解など総合的に判断。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■テキスト・参考文献（資料）等

□テキスト プリント「膠の使用について」「素材の特性 - 絵具」「素材の特性 - 基底材」「鉛筆デッサン - 人体」 教員が配布

□参考文献 『基礎から学ぶ日本画 日本画演習Ⅰ・Ⅱ』（畠中光亨 京都造形芸術大学）『日本画の表現技法』（石踊紘一、高崎三朗 美術出版社）
絵画学科室

『マックス・デルナー 絵画技術体系』（ハンス・ゲルト・ミュラー改訂、佐藤一郎訳 美術出版社） 絵画学科室

『日本画用語辞典』（東京藝術大学大学院文化財保存学日本画研究室 株式会社東京美術） 絵画学科室

『素描 - 稲垣孝二』（稲垣孝二著 株式会社日動出版部） 絵画学科室

□参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 人体デッサン

【期間】 10月 21日(月)～11月 8日(金)

【教室】 日本画1年生実習室(美術棟3階)

【担当】 関谷理、香川亮、平山英樹、非常勤講師(絵画専攻)

【課題】 人体デッサン

制作条件

- ・ムービングやポーズによるイメージから動的なドローイング表現に展開した作品を課題ごとに1点(計2点)。ポーズに対する緻密な表現のデッサンを課題ごとに1点(計2点、15号相当)制作すること。

【授業概要】

(テーマ) 人体の構造、造形的な美しさを学ぶことで芸術に必要な美的感覚、造形表現を養い、そこからムービングなどの動的イメージをドローイング表現に展開することで絵画表現における発想力の養成を目的としている。また、人体デッサンにおいて人体の緻密な表現を行うことで、日本画制作に必要な基礎的な描写力を養うことを目的とする。

【到達目標】

- ・人体をクロッキーやドローイングといった自由な表現で展開しながら、人体の動作、構造、量感への意識を高めることができる。
- ・人体デッサンにおいて必要な緻密な造形表現、質感、空間などを表現しながら、人体の美しさやそれを取りまく空間感を理解することで自身の美的感覚を深めることができる。
- ・表現において自己の研究テーマを明確に設定し、制作において積極的に探究することができる。
- ・人物モデルへのマナー、ルールなどを理解し、他者とのコミュニケーションを通してデッサン授業を円滑に行うことができる。

【授業計画・方法】

- 第1回 ○実習説明 制作準備 デッサン会場のセッティング
- 第2回 ○制作開始 10分毎のクロッキー
- 第3回 ○初日終了時に古今東西の人体デッサン、過去の参考資料など閲覧
- 第4回 ○制作 立ちポーズによるドローイング、クロッキー(コンテ、パステル、水彩絵具など)
- 第5回 ○制作 座りポーズによるドローイング、クロッキー(コンテ、パステル、水彩絵具など)
- 第6回 ○制作 ムービングによるドローイング表現(コンテ、パステル)
- 第7回 ○制作 ムービングによるドローイング表現(水彩絵具)
- 第8回 ○制作 ポーズから固定ポーズを選択し人体デッサン制作
- 第9回 ○制作 画材説明 デッサンの順序(濃い鉛筆から使用)の説明
- 第10回 ○制作 2B以上のやわらかい鉛筆によるポイント取り
- 第11回 ○制作 全体のバルール(色彩バランス)を合わせながら描写
- 第12回 ○制作 髪の毛などの明度の濃い部分の描写
- 第13回 ○制作 全体のバルール(色彩バランス)を合わせながら細部の描写
- 第14回 ○制作 作品の完成
- 第15回 ○講評 制作修了 作品講評

【成果物】

- ・F15号相当の人体デッサンを課題ごとに1点。計2点。実習のなかで制作したドローイング、クロッキーなど課題ごとに1点。計2点。

【評価の方法・基準】

□方法

作品の完成度(50%)、平常点(50%) 平常点は授業への参加状況、授業への積極性、画材への理解など総合的に判断。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(作品)等】

□テキスト プリント『鉛筆デッサン-人体』 教員が配布

□参考文献 『素描-稲垣孝二』(稲垣孝二著 株式会社日動出版部) 絵画学科室

□参考資料 学生参考作品

【実習名】 制作Ⅱ・人体制作

【期間】 11月 11日(月)～12月 20日(金)

【教室】 日本画1年生実習室(美術棟3階)

【担当】 関谷理、香川亮、平山英樹、非常勤講師(絵画専攻)

【課題】 人体デッサン実習で制作した人体デッサン、クロッキー及びドローイングの作品をもとに、30号相当の作品を制作する。

【授業概要】

(テーマ) 人体デッサンで学んだ人体の構造、造形的な美しさや、ドローイングなどの作品、ムービングなど動的イメージから発展させ、人体をモチーフに独創的な絵画表現における発想力の養成を目的とする。

【到達目標】

- ・人体の観察から得た人体の動作、構造、量感、線の美しさや顔の表情など人体の要素を意識し、発展させながら人物をモチーフにした作品を完成することができる。
- ・日本画の岩絵具による人物の表現において自身の研究テーマを設定し、制作において積極的に探究しながら制作を進めることができる。
- ・日本画における人物を描いた作品などから、自身の作品における独創性を考え、絵画表現における発想力を養うことができる。
- ・人体制作に対しての研究成果を論理的にまとめ発表することで、自作品を通して他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

【授業計画・方法】

- 第1回 ○課題説明 制作準備
- 第2回 ○制作開始 人体デッサン、クロッキーをもとに全体の構図を考えスケッチブックに下図をつくる
- 第3回 ○制作 ドーサ液を作る 和紙にドーサ引き
- 第4回 ○制作 和紙を30号パネルに張る
- 第5回 ○制作 下地制作 和紙に下地として胡粉をぬる
- 第6回 ○制作 岩絵具を下地としてぬる
- 第7回 ○制作 人体デッサン、クロッキーまたは下図をトレース紙にトレース
- 第8回 ○制作 トレース紙を画面にトレース
- 第9回 ○制作 画面に写された線を墨で骨描き
- 第10回 ○制作 写された線をたよりに画面を着彩
- 第11回 ○制作 構成、パルレールなどを確認しながら均整がとれ過ぎないように制作を進める(バランスをまとめ過ぎると制作が進めないため)
- 第12回 ○制作 中間の講評を挟む
- 第13回 ○制作 他者との比較により、客観的に視点で再度確認後、要点押さえながら制作を進める
- 第14回 ○制作 作品完成
- 第15回 ○講評 制作終了 作品講評

【成果物】

F30号相当の人物制作1点。

【評価の方法・基準】

□方法

作品の完成度(50%)、平常点(50%) 平常点は授業への参加状況、授業への積極性、画材への理解など総合的に判断。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(作品)等】

- テキスト プリント「膠の使用について」「素材の特性 - 絵具」「素材の特性 - 基底材」「鉛筆デッサン - 人体」 教員が配布
- 参考文献 『基礎から学ぶ日本画 日本画演習Ⅰ・Ⅱ』(畠中光亨 京都造形芸術大学) 絵画学科室
『日本画の表現技法』(石踊紘一、高寄三朗 美術出版社) 絵画学科室
『マックス・デルナー 絵画技術体系』(ハンス・ゲルト・ミュラー改訂、佐藤一郎訳 美術出版社) 絵画学科室
『日本画用語辞典』(東京藝術大学大学院文化財保存学日本画研究室 株式会社東京美術) 絵画学科室
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【実習名】 制作Ⅲ・風景制作

【期 間】 1月 6日(月)～1月 27日(月)

【教 室】 日本画1年生実習室(美術棟3階)

【担 当】 関谷理、香川亮、平山英樹、非常勤講師(絵画専攻)

【課 題】 「日常」をテーマに実在の風景の写真または動画像をトレース紙によって転写し、それをもとに日本画制作を行い30号相当の作品を完成させる。

【授業概要】

(テーマ)「日常」をテーマに実在の風景の写真または動画像の転写による制作を行うことで、写実表現の充実を図りながら絵画における一般的包括的な内容を網羅し、現代における絵画表現の発展を目的としています。

【到達目標】

- ・実在の風景の動画像から転写を行うことで、造形感覚、質感、空間などを表現しながら、風景の美しさやそれを取りまく空間の雰囲気表現し、自身の美的感覚を養う。
- ・表現において自己の研究テーマを明確に設定し、制作において積極的に探究しながら作品を完成することができる。
- ・作品制作において課題との関連性を説明し、自作品を通して他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

【授業計画・方法】

- 第1回 ○実習説明 制作準備
- 第2回 ○制作 風景の取材 個々の資料集め
- 第3回 ○制作 取材資料のなかから選び、トリミングなど構図決め
- 第4回 ○制作 30号サイズへの引き延ばし作業
- 第5回 ○制作 トレース紙に転写
- 第6回 ○制作 ドーサ液を和紙にぬる
- 第7回 ○制作 パネルに和紙をはる
- 第8回 ○制作 胡粉、水干絵具による下地制作
- 第9回 ○制作 トレース紙を和紙に転写
- 第10回 ○制作 写した線を墨で骨描き
- 第11回 ○制作 明度の濃い部分から描写
- 第12回 ○制作 全体のバルール(色彩バランス)を合わせながら岩絵具で描写
- 第13回 ○制作 全体のバルール(色彩バランス)を合わせながら細部の描写
- 第14回 ○制作 作品の完成
- 第15回 ○講評 制作修了 作品講評

【成果物】

30号相当の風景制作1点。

【評価の方法・基準】

□方法

作品の完成度(50%)、平常点(50%) 平常点は授業への参加状況、授業への積極性、画材への理解など総合的に判断。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(作品)等】

- テキスト プリント「膠の使用について」「素材の特性 - 絵具」「素材の特性 - 基底材」 教員が配布
- 参考文献 『基礎から学ぶ日本画 日本画演習Ⅰ・Ⅱ』(畠中光亨 京都造形芸術大学) 絵画学科室
『日本画の表現技法』(石踊紘一、高寄三朗 美術出版社) 絵画学科室
『マックス・デルナー 絵画技術体系』(ハンス・ゲルト・ミュラー改訂、佐藤一郎訳 美術出版社) 絵画学科室
『日本画用語辞典』(東京藝術大学大学院文化財保存学日本画研究室 株式会社東京美術) 絵画学科室
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

【期 間】 12月9日(月)～12月20日(金)

【教 室】 油画1年実習室

【担 当】 香川 亮 非常勤講師

【課 題】 水性多色摺り木版画制作

【授業概要】

木版画におけるイメージが版によって変化する表現の面白さと、数版を用いて制作する多色摺り木版画の基礎を学ぶ。3版～6版の版を作り、多色摺り木版画を制作します。1版ごと版を重ねるに従って、絵として木版画が完成されていくことを求めます。木版を重ねて作品を創り上げるという事を求めます。

【学習目標】

木版画の彫りや摺りの技法を理解し、基本的技術を習得する。多色摺り技法や様々な木版画表現を試み各自作品化する実習制作を求める。

【授業計画・方法】

1. 教室準備、実習内容説明、 エスキース、アドバイス
 2. エスキースを見て制作工程の説明、
 3. 摺りの実演 エスキース
 4. 彫りの説明 各自制作 エスキース
 5. 彫り（1版～2版） (制作工程をアドバイスします。)
 6. 彫り（3版～6版） 各自制作
 7. バレンの摺り方と使用法
 8. ためし摺り 各自制作 アドバイス
 9. 床の制作と使用法について 各自制作 アドバイス
 10. 本摺り 摺り（乾いた和紙・濡らした和紙）
 11. 本摺り 摺り各自制作 アドバイス
 12. 本摺り カラーバランスと和紙
 13. 本摺り 摺り各自制作 アドバイス
 14. 作品の仕上げ (サインとエディションにつて)
 15. 道具の片付け 講評(ディスカッション) 提出
- ・(各自の学生準備) 今までに各自が描いている内容のエスキースプランとして特に版画を意識しないで良いので(スケッチブックにあるようなエスキースを数枚)、内容は自由でいいので実習前に準備して下さい。出来れば色彩があるものが望ましい。
エスキースサイズ(300×225mm程度)、縦横自由、用紙の種類は自由です。(コピー、写真も可)
プラン、その他のデッサン資料、スケッチブック、素描道具、水彩道具、筆洗、その他。
(※アクリル系水彩絵具は木版画には使用不可)
- ・(専攻での準備) 水彩絵具(木版用インク)、彫刻刀、シナ合板、楮手漉き和紙、機械漉き奉書紙、その他木版道具一式
- 【成 果】 水性多色摺り木版画2点の提出作品

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点(出席と制作の取り組み) 40% 成果作品の提出・評価 60% による総合評価
- 基準 到達目標を目的として、履修規程に定める「授業科目の成績基準」に則り評価基準とする。

■【参考書・参考資料】(資料)等

- 教科書「現代木版画技法」日本の伝統木版画の制作(黒崎 彰 著)美術出版社
- テキスト プリント 水性木版画テキスト 版画研究室
- 参考文献 版画辞典 (室伏哲郎 著)東京書籍株式会社
- 参考資料 学生用参考作品

21113	箔	2単位 後期	1	演習	香川亮 平山 英樹 関谷 理 非常勤講師
-------	---	--------	---	----	-------------------------------

■テーマ

絵画における日本画の素材や表現の幅を広げ、箔の表現技法の基礎を学び表現能力の向上と養成に努める。

■授業概要

日本画の伝統的な画材である箔を用い、金属腐食などを利用した物質的な直接的表現を行い、基礎的な材料の知識や用法を習得しながら現代における独創的な表現を目指す。

■到達目標

- ・箔表現における伝統技法を理解し、作品制作において有効に活用し、作品を完成することができる。
- ・自己の研究テーマを明確に設定し、制作において箔表現を積極的に探究することができる。
- ・課題制作に対して論理的に研究成果の発表ができ、他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

■授業計画・方法

- 第1回 ○実習の概要説明
 第2回 ○制作準備 ドーサ液 教員による箔使用法の実演
 第3回 ○制作準備 ドーサ液を和紙にぬる作業 パネルに和紙を張る
 第4回 ○制作 作品の下図制作
 第5回 ○制作 15号に胡粉、岩絵具による下地制作
 第6回 ○制作 岩絵具による着彩
 第7回 ○制作 画面のイメージが固まった段階で乾燥させる
 第8回 ○制作 あかし紙に箔をあかす作業
 第9回 ○制作 箔はり
 第10回 ○制作 箔が乾いたら定着のために薄いドーサ液をぬる
 第11回 ○制作 岩絵具を上からぬる 6回～11回の作業を繰り返し個々のイメージに近づけていく
 第12回 ○制作 銀箔による腐食表現 6回～11回のなかみに組み込んでよい
 第13回 ○制作 岩絵具による着彩
 第14回 ○制作 箔使用における作品の強度、安定性の考察。
 第15回 ○講評 制作修了 作品講評

定期試験は実施しない。

【成果物】

F15号のパネルに和紙をはり、箔表現を用いた作品1点。実習のなかで制作したテストピースなど

■履修上の留点（授業以外の学習方法を含む）

- ・箔表現における伝統技法を理解し、積極的に画材を用いながら意欲的に制作し、箔表現を活かしながら作品を完成することができるか。
- ・課題において自己の研究テーマを明確に設定し、完成までのプロセスを自ら構成し計画的に制作を行えるか。要所において計画が破たんをきたす局面においても、自ら克服し積極的に研究の追求が行えるか。
- ・課題制作に対して論理的に成果発表ができ、作品を介して他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができるか。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（出席と制作の取り組み）40% 成果作品の提出・評価60% による総合評価
- 基準 到達目標を目的として、履修規程に定める「授業科目の成績基準」に則り評価基準とする。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書「日本画の表現技法」日本画におけるマチエールの可能性を追求（石踊紘一・高寄三朗 著）美術出版社
- テキスト プリント 箔実習「箔を貼る・焼く・擦り出しの制作」
- 参考文献 日本画用語辞典 東京藝術大学大学院保存学日本画研究室編 東京美術出版
- 参考資料 学生用参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21213	日本画Ⅱ－Ⅰ	6単位 前期	2	実技	香川 亮 (担任) 非常勤講師 平山 英樹 非常勤講師 関谷 理 非常勤講師 知花均 (凹)

■テーマ

日本画の素材や表現の幅を広げ、絵画における表現技法の基礎を学び絵画表現能力の向上と養成に努める。

■授業概要

日本画の専門的基礎として各自の日本画表現及び技法の向上をテーマに日本画課題制作を行う。各自の絵画表現の幅を広げるため伝統的な工芸技法の習得として型染め実習や版表現技法の専門的基礎としての凹版実習を行う。

■到達目標

- ・課題制作を通じ各自の日本画表現の幅広い知識と理解を深め制作作品を行う事が出来る。
- ・日本画における各自の研究を理解し実践を行う制作作品が出来る。
- ・課題制作を行うことで理論的に制作成果が理解出来き、制作発表等の表現能力の向上を図る。

■授業計画・方法

与えられた課題制作と実習を基に、各自の創作研究と作品化を試みる。

制作Ⅰ(植物) 30号以上

- 第1回 課題説明 写生(取材や資料収集) 制作準備
- 第2回 下図研究 写生を基に構想し、構成を考えた下図制作
- 第3回 制作 技法研究 各自の材料や下地について
- 第4回 制作 技法研究
- 第5回 制作 表現研究 各自の彩色法など
- 第6回 制作 表現研究
- 第7回 講評

人体デッサン

- 第8回 課題説明 制作(講評後に提出)

型染め実習 ※日本画学生全員受講

制作Ⅱ(人体) 30号以上

- 第9回 下図研究 写生を基に構想し、構成を考えた下図制作
- 第10回 制作 技法研究 各自の材料や下地について
- 第11回 制作 技法研究
- 第12回 制作 表現研究 各自の彩色法など
- 第13回 講評

凹版実習 ※日本画学生全員受講

- 第14回 課題説明 制作
- 第15回 講評

■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

常に各自自分の課題制作のテーマを意識して制作する。各課題の制作がスムーズに行えるよう準備する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点(出席と制作の取り組み)40% 成果作品の提出・評価60% による総合評価
- 基準 到達目標を目的として、履修規程に定める「授業科目の成績基準」に則り評価基準とする。

■教科書・参考文献(資料)

- 教科書「日本画の表現技法」日本画におけるマチエールの可能性を追求(石踊紘一・高寄三朗 著)美術出版社
- テキスト 日本画の描き方 花と静物(中島 千波 著)講談社
- 参考文献 日本画用語辞典 東京藝術大学大学院保存学日本画研究室編 東京美術出版
- 参考資料 学生用参考作品 その他

【実習名】 制作Ⅲ : 凹版・コラグラフによる実習

【期間】 7月 8日(月)～ 7月 26日(金)

【教室】 版画工房

【担当】 知花 均、金城 徹

【課題】 銅版画、コラグラフの基礎実習

【授業概要】

凹版種の中の凹版形式およびコラグラフの基礎実習を行います。芸術表現としての凹版の版材は金属板に限らず木板、プラスチック板、厚紙などに凹版の原理に従って創意工夫することが可能ですが、実習では15世紀のヨーロッパに起源をもつ銅版画技法から直刻法(ドライポイント)と腐蝕法(エッチング)による製版技法と刷りにいたる基礎実習を行います。また、コラグラフは20世紀に登場した版技法ですが厚紙や塩ビ板などの版材にコラージュの手法で物質を貼り製版するもので、フロッタージュや凹凸版刷りなどとの関連を学び、応用表現を学びます。

このほか現代の凹版表現の紹介、額装の基礎知識と方法、エディション管理、作品の保管方法について学びます。

【到達目標】

- ・銅版画の特性と道具、材料、腐蝕液の扱いを理解し、直刻法、腐蝕法による銅版画を制作することができる。
- ・コラグラフの特性を理解し、試作することができる。

【授業計画・方法】

1. 導入 凹版形式の特性について 参考作品の紹介
2. 銅版画のプレートの準備：裁断、裏止め、プレートマーク作り、研磨
3. 直刻法のデモンストレーション(ドライポイント、エングレービング、メゾチント)
4. 各自、直刻法による制作：ドライポイントによる製版(ニードル、サンドペーパー)
5. 刷りの指導、各自の試刷り、本刷り
6. 腐蝕法によるテストプレート制作：腐蝕による製版の原理、腐蝕液の管理・取り扱いについて
7. ラインエッチング、アクアチント
8. ソフトグラウンドエッチング、リフトグラウンドエッチング 他 試刷り
9. 各自の作品制作(直刻技法、腐蝕法を使つての制作)：下絵作成と製版のプランニング 個別指導
10. 下絵と製版のプランニング指導
11. 製版、試刷り、本刷り
12. コラグラフ制作 製版のデモンストレーション 刷りの実演
13. 各自の制作：版作り 素材集め 製版 刷り(凸版刷り、凹凸版刷り)
14. 芸術資料館の版画収蔵作品の閲覧
15. カルトン作り 実習作品の鑑賞会 作品提出 片づけ

【成果物】

- ・銅版画の作品(ドライポイント、エッチング)
- ・コラグラフの作品(凸版刷り、凹凸版同時刷り)

【評価の方法・基準】

□方法 作品 60% 平常点 30% 自己評価書 10 %

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(作品)等】

- テキスト プリント「凹版実習」、「平版実習」
- 参考文献 『版画史解剖—正倉院からゴーギャンー』黒崎彰著 阿部出版株式会社 他。
『中林忠良の腐蝕銅版画』アートテクニックナウ 15 河出書房新社
『NANGA 東西交流の波』東京芸術大学版画研究室編集 東京新聞発行
『版画芸術の饗宴ケネス・タイラーと巨匠たち 1963-1992』横浜美術館学芸部
『版画辞典』室伏哲郎、『現代版画コレクター事典』長谷川公之
- 参考資料 長谷川潔、深沢幸雄、野田哲也、清塚紀子、中林忠良、原健、フランクステラ、学生作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21214	日本画Ⅱ—Ⅱ	7単位 後期	2	実技	香川 亮(担任) 非常勤講師 平山 英樹 非常勤講師 関谷 理 非常勤講師

■テーマ

日本画の素材や表現の幅を広げ制作研究を行う。日本画における古典表現技法の基礎を学び絵画表現能力の向上と養成に努める。

■授業概要

日本画の専門的基礎として各自の日本画表現及び技法の向上をテーマに日本画課題制作と共に古典模写、絹本制作、裏打ち実習を行う。古美術研旅行等を行い絵画における風土や歴史を理解し、古代より現代に至る総合美術の理解を深める。

■到達目標

- ・課題制作を通じ各自の日本画表現の幅広い知識と理解を深め制作作品を行う事が出来る。
- ・日本画における各自の古典技法を理解し実践を行う制作作品が出来る。
- ・課題制作を行うことで理論的に制作成果が理解出来き、制作発表等の表現能力の向上を図る。

■授業計画・方法

与えられた課題制作と実習を基に、各自の創作研究と作品化を試みる。

制作Ⅲ(絹本制作)

- 第1回 課題説明 取材・写生 絹張り準備 絹の木枠張り
- 第2回 下図研究 写生を基に構成した下図をつくる
- 第3回 制作 絹の技法研究
- 第4回 制作
- 第5回 講評

古美術研旅行 ※絵画2年生全員受講

- 第6回
- 第7回

模写実習

- 第8回 課題説明 制作
- 第9回 講評

裏打ち実習

- 第10回 課題説明 作業

人体デッサン 15号以上

- 第11回 課題説明 ドローイングについて 提出

制作Ⅳ(自由制作) 30号

- 第12回 取材・写生・下図
- 第13回 制作 自主研究を含む
- 第14回 制作 自主研究を含む
- 第15回 講評

■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

各自、課題制作のテーマを意識して制作する。各課題の制作がスムーズに行えるよう準備する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点(出席と制作の取り組み)40% 成果作品の提出・評価60% による総合評価
- 基準 到達目標を目的として、履修規程に定める「授業科目の成績基準」に則り評価基準とする。

■教科書・参考文献(資料)

- 教科書「日本画の表現技法」日本画におけるマチエールの可能性を追求(石踊紘一・高峯三朗 著)美術出版社
- テキスト 日本画の描き方 花と静物(中島 千波 著)講談社
- 参考文献 日本画用語辞典 東京藝術大学大学院保存学日本画研究室編 東京美術出版
- 参考資料 学生用参考作品 その他

【実習名】模写（高松塚）、

【期 間】古典模写：11月18日(月)～11月29日(金)

【教 室】日本画2年生アトリエ

【担 当】香川 亮 平山 英樹 関谷 理 非常勤講師

【課題】現状模写の基礎実習

【授業概要】現状模写の基礎実習として、高松塚古墳壁画の模写作品を用いて古典模写を行います。

【学習目標】日本画の古典資料としての模写作品を通じ、現状模写の基礎的内容と技術を学ぶことで、日本画制作の基礎を理解することを求めます。

【授業計画・日程表】

1. 模写準備 上げ写し(現状模写)の準備 非常勤講師
2. 古典模写(高松塚・彩色模本)の説明
3. 墨描き、上げ写し巻き上げ写し 各自制作 アドバイス
4. 墨による模本の線や調子を模写 各自制作 アドバイス
5. 墨による模本の剥落や擦り切れ陰影など拾い写し アドバイス
6. 「日本画について」 スライド講義 ※非常勤講師
7. 2年生作品講評会 ※非常勤講師
8. 下地の地塗り 各自制作 アドバイス
9. 墨写しによる模本写し 各自制作 アドバイス
10. 古色下地の再現(色調) 各自制作 アドバイス
11. 中間彩色による模本写し 各自制作 アドバイス
12. 墨仕上げによる模本写し各自制作 アドバイス
13. 彩色仕上げによる模本写し 各自制作 アドバイス
14. 古典模写の作品仕上げ
15. 講評会 片付

※講評会及び中間アドバイスは各自、必ず出席して下さい。

・模写実習の期間に実習とは別に非常勤講師の講義と作品講評会を行う。

・(学生準備) スケッチブック等、素描用具一式、日本画画材その他

・(専攻準備) 新聞紙、文鎮、ドーサ引き薄美濃紙、アラベール水彩紙(全紙大)、白模造紙(全紙大)

【成 果】 古典模写(高松塚)1枚

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点(出席と制作の取り組み)40% 成果作品の提出・評価60% による総合評価
- 基準 到達目標を目的として、履修規程に定める「授業科目の成績基準」に則り評価基準とする。

■教科書・参考文献(資料)等

- 教科書「よみがえる日本画」伝統と継承の1000年 東京藝術大学大学美術館協力会
- テキスト プリント 「模写の制作」
- 参考文献 日本画用語辞典 東京藝術大学大学院保存学日本画研究室編 東京美術出版

【実習名】 裏打ち実習

【期 間】・12月2日(月)～12月6日(金)

【教 室】・日本画2年生アトリエ

【担 当】・香川 亮 関谷 理 非常勤講師

【課題】・各自の絹本作品及び模写作品の裏打ち実習

【授業概要】 各自の借り張りした日本画作品の仕上げ（表具・表装）基礎として、また薄和紙作品の保存に用いる等、各自の制作した紙本作品と絹本作品の裏打ちをする。

【学習目標】 日本画の裏打ちを理解し、技能の基礎を学ぶことを求める。各自の今後の制作や作品に用いる表現技法としても応用できるよう習得する。

【授業計画】

1. 裏打ち準備（糊作り、くい裂き）準備アドバイス 非常勤講師
2. 作品裏打ち準備 アドバイス
3. 裏打するもの準備 アドバイス
4. 各自の鳥獣戯画模写作品(紙本)
5. 紙本裏打ち指導 ※非常勤講師
6. 紙本裏打ち（糊づけ） 各自実習 アドバイス
7. 紙本裏打ち（撫で刷毛） 各自実習 アドバイス
8. 紙本裏打ち（かけ棒） 各自実習 アドバイス
9. 紙本裏打ち（仮 張り） 各自実習 アドバイス
10. 各自の絹本長物作品（絹本）の中間下地や仕上げ用の裏打ち
11. 絹本裏打ち指導 ※非常勤講師
12. 絹本裏打ち（水 引き） 各自実習 アドバイス
13. 絹本裏打ち（たたき刷毛） 各自実習 アドバイス
14. 絹本裏打ち（仮 張り） 各自実習 アドバイス
15. 裏打ち道具の片つけと裏打ち仕上げ

・（学生準備）鳥獣戯画模写作品 1点、絹本長物作品 1点
スケッチブック等、素描用具一式、日本画画材その他

・（専攻準備）、ドーサ引き薄美濃紙、 藁半紙、裏打ち道具一式、麩糊、その他

【成 果】鳥獣戯画模写 1点、 絹本長物作品 1点

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（出席と制作の取り組み）40% 成果作品の提出・評価60% による総合評価
- 基準 到達目標を目的として、履修規程に定める「授業科目の成績基準」に則り評価基準とする。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書「日本画の表現技法」日本画におけるマチエールの可能性を追求（石踊紘一・高寄三朗 著）美術出版社
- テキスト プリント 「日本画・保存修復」 「琉球の絵画」西村 貞雄著
- 参考文献 日本画用語辞典 東京藝術大学大学院保存学日本画研究室編 東京美術出版

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21311	日本画Ⅲ	14単位 通年	3	実技	平山英樹（担任） 非常勤講師 香川 亮 非常勤講師 関谷 理 非常勤講師 高崎賀朗（孔版） 非常勤講師

■テーマ 自身のテーマの追求と表現の多様化

■授業の概要 日本画における専門的な技術を習得し、多様な表現を試みながら、各自のテーマに基づく自己表現に取り組む。古典技法も踏まえ、現代における幅広い表現への認識を深める。

■到達目標 各自のテーマを掘り下げるとともに、技法・材料についての知識、技術の習得を図る。

■授業計画・方法 [前期]与えられたテーマを基に、自由な発想・表現を試みる。

1. 制作Ⅰ：一植物を構成して描く・50号— 課題説明、写生、制作準備。
2. 制作Ⅰ：下図研究①、下地について① 下塗りから下図を書き写す。
3. 制作Ⅰ：下図研究②、下地について② 彩色。
4. 制作Ⅰ：細部の描写について。彩色。
5. 制作Ⅰ：完成度を求める。
6. 制作Ⅰ：自己解説。講評。資料紹介。
7. 人体デッサン：クロッキー、デッサン等、様々な描法に取り組む。
8. 制作Ⅱ：一人物を構成する・80号— 課題説明、制作準備。
9. 制作Ⅱ：下図研究③ 様々な技法①。 下塗り。
10. 制作Ⅱ：構成について考える。彩色。 ●選択実習 孔版実習
11. 制作Ⅱ：中間講評 ↓
12. 制作Ⅱ：様々な技法②。彩色 ↓
13. 制作Ⅱ：箔の技法を取り込む。彩色。 ●自主制作
14. 制作Ⅱ：細部の書き込み。 ↓
15. 制作Ⅱ：完成度を求める。自己解説。講評。資料紹介。 ↓（夏期休業中を含む）
—9月 自主研修期間 出品等への指導。

[後期]各自のテーマを基に、表現を深める。

1. 制作Ⅲ：各自のテーマを基に（A）80号 課題説明、取材、写生、制作準備。
2. 制作Ⅲ：下図研究④、下図について③、マチエールについて。
3. 制作Ⅲ：様々な技法③
4. 制作Ⅲ：幅広い表現の応用を試みる。①
5. 制作Ⅲ：細部の書き込み。完成度を求める。 11/2. 3 芸大祭
6. 制作Ⅲ：自己解説。講評。資料紹介。
7. 人体デッサン：様々な素材を使って。
8. 制作Ⅳ：各自のテーマを基に（B）100号 課題説明、取材、写生、制作準備。
9. 制作Ⅳ：テーマの掘り下げに取り組み、下図を作成する。
10. 制作Ⅳ：幅広い表現の応用を試みる。
11. 制作Ⅳ：完成度を求める。
12. 制作Ⅳ：自己解説。講評。資料紹介。
13. 制作Ⅴ：各自のテーマを基に（C）30号 課題説明、取材、写生、制作準備。
14. 制作Ⅴ：実験的な表現に取り組む。
15. 制作Ⅴ：完成度を追求する。自己解説。講評。資料紹介。次年度の課題を探る。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む） 課題制作及び課題の取材や写生を含む準備、学内・外における活動、活動についても成果を問い、評価する。

■成績評価の方法・基準

□方法 作品（5課題、自主制作、デッサン及び孔版制作）の成果の完成度、テーマの理解度を60%、制作への取り組み等、平常点を40%の総合判定とする

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等 参考文献、資料（素材含む）、情報等の紹介、説明は、適宜行う。

【実習名】 孔版実習

【期 間】 6月18日(火)～7月8日(月)

【教 室】 版画工房(美術棟)

【担 当】 高崎 賀朗、非常勤講師

【課 題】 孔版(シルクスクリーン)による版画集制作

【授業概要】 (テーマ) 孔版(シルクスクリーン)は、作品制作としての版画技法に限らず工業製品からTシャツなどのプリント等、幅広く活用されている印刷技法でもある。実習では、孔版についての歴史・原理と特徴・作品紹介等により孔版表現への理解を深め、作品制作を通して写真製版法の技法・技術を習得する。各自の制作テーマによる孔版表現技法を生かしたエディション作品の制作を行う。そして、各自の制作過程と共同による制作過程を通して最終的に版画集としてまとめる。シートサイズの中での自己表現とイメージを量産する複数性、コミュニケーションとしての版画集の位置づけについて考える。

【到達目標】

- ・ 作品制作を通して孔版表現の特徴について理解を深め写真製版法の技法を習得できる。
- ・ 各自の制作テーマによる孔版表現技法を生かしたエディション作品の制作ができる。
- ・ 各自の制作過程と共同による制作過程を通して最終的に版画集としてまとめることができる。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、版画室準備、スクリーンの準備、エスキース制作
2. 講義「シルクスクリーンの歴史・原理と特徴・作品紹介」、原画用紙配布
3. 描画説明(テスト版)、原画制作描画説明(テスト版)、原画制作
4. 感光乳剤の制作説明、準備、製版説明
5. インク準備、摺り説明、試し摺り、インク除去
6. 版再生説明、フィルム描画説明、フィルム描画
7. エディション作品制作：1版目のフィルム描画、製版、摺り、版再生
8. エディション作品制作：2版目のフィルム描画、製版、摺り、版再生
9. エディション作品制作：3版目のフィルム描画、製版、摺り、版再生
10. エディション作品制作：4版目のフィルム描画、製版、摺り、版再生
11. エディション作品制作：5版目のフィルム描画、製版、摺り、版再生
12. エディション作品制作：各自のエディション制作終了日
13. 版画集タトウ制作、タトウ用紙の断裁、表紙・奥付の原画制作、表紙・奥付のフィルム描画、製版
14. 版画集タトウ制作、表紙・奥付の摺り、タトウ組み立て、内表紙制作、作品サイン入れ、作品タトウ詰
15. 版画集完成、版画室片付け、ディスカッション、コメントペーパー及び作品提出

※定期試験は実施しない。

【成果物】 孔版(シルクスクリーン)による版画集制作

【評価の方法・基準】

□方法 成果作品60%、平常点(授業への取り組み状況)20%、コメントペーパー20%により総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

□ テキスト 授業内にプリント「シルクスクリーンテキスト」を配布する。

□ 参考文献、参考資料 『版画の技法と表現』執筆者 河野実、佐川美智子、箕輪裕、滝沢恭司、内田啓一、今井圭介、杉野秀樹、町田市立国際版画美術館、2003年改訂第二版(1987年刊)、『世界版画史』青木茂 監修、美術出版社、2001年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21411	日本画Ⅳ	15単位 通年	4	実技	平山 英樹 非常勤講師 香川 亮 非常勤講師 関谷 理 非常勤講師

■授業概要

卒業制作に向けて、各自のテーマ・表現方法を探究し、独創的で完成度のある作品表現を目標に、卒業制作展発表を前提として制作する。担当教員の実務経験を背景にした指導により、社会での作品発表を念頭に置いた具体的な展示計画の立案など実践的な方法論を学ぶ。

■学習目標

自らのテーマを高い造形性をもって制作することを目標とし、卒業制作では、完成度の高さを追求する。

■授業計画・方法

[前期] 卒業制作に向けて、各自のテーマ・表現方法を探究し、制作研究を行う。

●制作Ⅰ 各自のテーマを基に 100号程度

- 第1回 課題説明 取材・写生 制作準備
- 第2回 下図研究 各自のテーマの創出(テーマに沿った素材の選択、技法の研究)
- 第3回 ↓制作 下地について個別指導(外部での展示における安全面、経年変化への耐久性について)
- 第4回 ↓制作 技法について個別指導(テーマ、各自の独創性の創出を念頭に指導)
- 第5回 ↓制作 作品コンセプトをもとに中間講評(作品の完成に向けて再度制作計画の立案)
- 第6回 ↓制作 完成度と密度について個別指導
- 第7回 講評

●制作Ⅱ 各自のテーマを基に 100号程度

- 第8回 課題説明 取材・写生 制作準備
- 第9回 下図研究 各自のテーマの創出(テーマに沿った素材の選択、技法の研究)
- 第10回 ↓制作 下地について個別指導(外部での展示における安全面、経年変化への耐久性について)
- 第11回 ↓制作 技法について個別指導(テーマ、各自の独創性の創出を念頭に指導)
- 第12回 ↓制作 作品コンセプトをもとに中間講評(作品の完成に向けて再度制作計画の立案)
- 第13回 ↓制作 完成度と密度について個別指導
- 第14回 ↓制作
- 第15回 講評

●卒業制作ディスカッション1 テーマについて作品コンセプトを担当教員とディスカッション

●卒業制作ディスカッション2 テーマ・サイズについて担当教員とディスカッション (9月初旬)

●卒業制作下図研究 ディスカッション後、授業外での課題として複数枚の卒業制作下図、ドローイングの制作、提出 (9月中旬)

●卒業制作準備 パネル等基底材、紙類等の準備 (9月下旬) 地塗り等、各自制作の準備

[後期] 各自のテーマを深化させ、造形表現として確立を図り、卒業制作に取り組む。

●卒業制作 150号～200号程度 (後期 第1回～第15回)

●技法研究 各自の制作内容に応じて適宜個別指導

中間講評1 前半の段階での進捗状況をみて、講評・指導を行う。 (後期 第5回)

中間講評2 外部の非常勤講師による講評・講義・技法指導を行う。 (後期 第8回)

中間講評3 提出に向けて、完成度等、講評・指導を行う。 (後期 第13回)

卒業作品提出

卒業制作展準備 展示に向けて、会場設営、展示作業等を行う。

卒業制作講評 会期内、会場において、卒業制作の講評を行う。 (後期 展示期間中)

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

学内・外における発表について、その成果を問い、評価する。

■成績評価の方法・基準

□ 方法 平常点(制作への取組)30%、成果物70%による総合評価

(成果物)前期作品2点以上、後期卒業制作1点。複数枚の制作下図、ドローイング。

□ 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■参考文献(作品集、資料、美術情報等) 適宜紹介

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21121	油画 I	7単位 後期	1	実技	高崎 賀朗 (担任) 香川 亮 (凸版) 非常勤講師

■テーマ「絵画基礎」での経験を踏まえた一般的、包括的な絵画表現力（映像メディア表現含む）と発想力の養成

■授業概要

油画 I では、「絵画基礎」での経験を踏まえた一般的、包括的な絵画表現力（映像メディア表現含む）と発想力を養成する。「制作 I」写真撮影・スケッチ等による取材を基にしたドローイング制作と「制作 II」油彩制作により、絵画表現（映像メディア表現含む）への認識を深め発想力を養う。下地実習で制作したエマルジョン地キャンバスに「制作 II」油彩制作を行うことにより、他の下地（油性地）キャンバス等との油絵具や画溶液の吸収性の違いと描画効果等について実践的に比較検討する。また、油画の基礎的な材料の知識の修得、凸版実習での木版画制作を含めた一般的、包括的な絵画表現領域の実習を行う。

■到達目標

- ・ 作品制作を通して絵画表現（映像メディア表現含む）について認識を深め発想力を養うことができる。
- ・ 制作意図を整理することができ、作品制作について実験的かつ積極的に探究することができる。
- ・ 論理的に口頭での発表や記述を行うことができ、他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、制作 I：写真撮影、スケッチ等による取材、発想及び構想計画、コンセプトの立案
2. 制作 I：ドローイング制作、イメージ、構図、構成、素材、技法によるディスカッション
3. 制作 I：ドローイング制作、イメージ、構図、構成、素材、技法の応用と展開、ディスカッション、作品提出
4. 下地実習：エマルジョン地キャンバス制作、準備、制作工程説明、布断裁、水洗、前膠 1
5. 下地実習：エマルジョン地キャンバス制作、布張り、前膠 2、エマルジョン地作り、エマルジョン地塗布 1 層～3 層、完成
6. 制作 II-A：油彩制作（F 30 号）、発想及び構想計画、エスキース、コンセプトの立案、油画基礎材料講義
7. 制作 II-A：油彩制作（F 30 号）制作途中作品の中間ディスカッション
8. 制作 II-A：油彩制作（F 30 号）、素材と技法の応用、展開、仕上げ、完成
9. 凸版実習：水性多色摺り木版画制作、準備、エスキース、制作工程説明、彫り、試し摺り
10. 凸版実習：水性多色摺り木版画制作、本摺り、仕上げ、ディスカッション、作品提出
11. 制作 II-A：油彩制作（F 30 号）、ディスカッション、作品提出
12. 制作 II-B：油彩制作（F 50 号）、発想及び構想計画、エスキース、コンセプトの立案
13. 制作 II-B：油彩制作（F 50 号）、制作途中作品の中間ディスカッション
14. 制作 II-B：油彩制作（F 50 号）、素材と技法の応用、展開、仕上げ、完成
15. 制作 II-B：油彩制作（F 50 号）、ディスカッション、コメントペーパー及び作品提出

※定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 各自の制作に必要な画材・素材・備品・機材（デジタルカメラ）・資料等は、授業前日までに準備を行う。
- ・ 授業以外では、図書館等を利用し積極的な情報等の収集を行い授業内容について理解を深める。
- ・ 作品、授業資料等は大切に保管する。・ 授業時間外の教室使用を希望する場合には許可手続を行う。

■成績評価の方法・基準

□方法 成果作品 60%、平常点（授業への取り組み状況） 20%、コメントペーパー 20%により総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書『現代木版画技法 日本の伝統木版画の制作』黒崎 彰 著、美術出版社 □ テキスト 授業内にプリント「用語について」「油画基礎材料テキスト」「膠について」「地塗りについて」「下地研究：エマルジョン地」「水性木版画テキスト」を配布する。

□ 参考文献、参考資料 『アーティスト・マニュアル』STAN SMITH, PROFESSOR H. F. TEN HOLT 監修、黒江光彦、向井周太郎、徳橋昭三、川島重治、高橋揚一、榎庭祐介 訳、メルヘン社、1987 年、『絵具の科学』ホルベイン工業（株）、中央公論美術出版、平成四年 三版、『版画辞典』室伏哲郎 著、東京書籍株式会社

【実習名】 制作 I : 写真撮影・スケッチ等による取材を基にしたドローイング研究

【期間】 10月1日(火)~10月30日(水)

【教室】 油画1年実習室

【担当】 高崎 賀朗、非常勤講師

【課題】 「部屋、住居などにある様々な対象や窓の外に広がる風景、共に暮らす人や動物、友人や地域など、これらの自己を取り巻く環境との関係や記憶などを手掛かりとして、自己と環境について探究するための写真撮影・スケッチ等による取材を基にした複数枚のドローイングによる作品制作を行いなさい。」

制作条件

・制作テーマ：「自己と環境について」 ・表現手法：ドローイング

・制作期間：10/1 (火) ~10/29 (火)

・写真のプリントサイズは、ハガキサイズ~A3 サイズまでとし、プリント枚数は各自の必要枚数とする。

・ドローイングの制作枚数は平面的な場合は20~30枚程度。複合的または立体的な作品に展開する場合はその限りではない。

【授業概要】 (テーマ) 自己を取り巻く環境との関係や記憶などから浮かび上がる様々な事象について写真撮影・スケッチ等による取材により観察・記録を行い、それを基に紙を素材とした複数枚のドローイング制作を行うなかで自己と環境について探究することを試みる。ディスカッションでは、制作意図を整理し個人の発想に基づいた絵画表現へのアプローチについて交感を重ねることにより絵画表現(映像メディア表現含む)への認識を深め発想力を養う。

【到達目標】

- ・作品制作を通して絵画表現(映像メディア表現含む)について認識を深め発想力を養うことができる。
- ・制作意図を整理することができ、作品制作について実験的かつ積極的に探究することができる。
- ・論理的に口頭での発表や記述を行うことができ、他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、教室準備、取材
2. 制作 I : 写真撮影・スケッチ等による取材
3. 制作 I : 写真・スケッチ等によるディスカッション
4. 制作 I : ドローイング制作、発想及び構想計画
5. 制作 I : ドローイング制作、コンセプトの立案、イメージ
6. 制作 I : ドローイング制作、構図、構成
7. 制作 I : ドローイング制作、素材
8. 制作 I : ドローイング制作、技法
9. 制作 I : ドローイング制作、イメージ、構図、構成、素材、技法によるディスカッション
10. 制作 I : ドローイング制作、イメージの応用と展開
11. 制作 I : ドローイング制作、構図・構成の応用と展開
12. 制作 I : 制作 I : ドローイング制作、素材の応用と展開
13. 制作 I : 制作 I : ドローイング制作、技法の応用と展開
14. 制作 I : 制作 I : ドローイング制作、仕上げ
15. 制作 I : 制作 I : ディスカッション、コメントペーパー及び作品提出

※定期試験は実施しない。

【成果物】 制作 I ドローイング作品。作品数は20~30枚程度(用紙サイズ:任意、変形可)、複合的または立体的な作品に展開する場合はその限りではない。

【評価の方法・基準】

□方法 成果作品60%、平常点(授業への取り組み状況)20%、コメントペーパー20%により総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

□ テキスト 授業内にプリント「用語について」を配布する。

□ 参考文献、参考資料 『アーティスト・マニュアル』 STAN SMITH, PROFESSOR H. F. TEN HOLT 監修, 黒江光彦, 向井周太郎, 徳橋昭三, 川島重治, 高橋揚一, 桜庭祐介 訳, メルヘン社, 1987年

【実習名】 制作Ⅱ：制作Ⅰ（ドローイング）の展開による油彩研究

【期間】 11月5日(火)～1月27日(月) 下地実習、凸版実習の期間を含む。

【教室】 油画1年実習室

【担当】 高崎 賀朗、非常勤講師

【課題】 「制作Ⅰテーマ「自己と環境について」のドローイング制作から発見したことについて、自身の発想により展開した作品を制作しなさい。」

制作条件

- ・作品タイトルは各自で設定する。 ・表現手法：平面表現（油彩）
- ・制作Ⅱ-A：エスキース・油彩（F30号）、制作期間：11/15(金)～12/6(金)
- ・制作Ⅱ-B：エスキース・油彩（F50号）、制作期間：1/6(月)～1/24(金)

【授業概要】（テーマ）「制作Ⅱ：油彩研究」では「制作Ⅰ：写真撮影・スケッチ等による取材を基にしたドローイング研究」により発見したことについて、自身の発想により展開した作品制作を行い絵画表現（映像メディア表現含む）への認識を深め発想力を養う。下地実習で制作したエマルジョン地（半油性地）キャンバスに「制作Ⅱ」油彩制作を行うことにより他の下地（油性地）キャンバス等との油絵具や画溶液の吸収性の違いや描画効果等について実践的な比較検討を行いその違いについて理解する。また、油画基礎材料講義では油画材料の基礎知識を修得する。

【到達目標】

- ・作品制作を通して絵画表現（映像メディア表現含む）について認識を深め発想力を養うことができる。
- ・制作意図を整理することができ、作品制作について実験的かつ積極的に探究することができる。
- ・論理的に口頭での発表や記述を行うことができ、他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

【授業計画・方法】

1. 下地実習：エマルジョン地キャンバス制作、準備、制作工程説明、布断裁、水洗、前膠1
2. 下地実習：エマルジョン地キャンバス制作、布張り、前膠2、エマルジョン地作り
3. 下地実習：エマルジョン地キャンバス制作、エマルジョン地塗布1層～3層、完成
4. 制作Ⅱ-A：油彩制作（F30号）、発想及び構想計画、エスキース
5. 制作Ⅱ-A：油彩制作（F30号）、コンセプトの立案、油画基礎材料講義
6. 制作Ⅱ-A：油彩制作（F30号）制作途中作品の中間ディスカッション
7. 制作Ⅱ-A：油彩制作（F30号）、素材と技法の応用、展開、仕上げ、完成
8. 凸版実習：水性多色摺り木版画制作、準備、エスキース、制作工程説明（※凸版実習詳細は次ページに記載。）
9. 凸版実習：水性多色摺り木版画制作、彫り、試し摺り
10. 凸版実習：水性多色摺り木版画制作、本摺り、仕上げ、ディスカッション、作品提出
11. 制作Ⅱ-A：油彩制作（F30号）、ディスカッション、作品提出(1/6)
12. 制作Ⅱ-B：油彩制作（F50号）、発想及び構想計画、エスキース、コンセプトの立案
13. 制作Ⅱ-B：油彩制作（F50号）、制作途中作品の中間ディスカッション
14. 制作Ⅱ-B：油彩制作（F50号）、素材と技法の応用、展開、仕上げ、完成
15. 制作Ⅱ-B：油彩制作（F50号）、ディスカッション、コメントペーパー及び作品提出(1/27)

※定期試験は実施しない。

【成果物】 エマルジョン地（半油性地）キャンバス、制作Ⅱ-A：エスキース・油彩作品（F30号）、制作Ⅱ-B：エスキース・油彩作品（F50号）

【評価の方法・基準】

□方法 成果作品60%、平常点（授業への取り組み状況）20%、コメントペーパー20%により総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献（資料）等】

□ テキスト 授業内にプリント「用語について」「油画基礎材料テキスト」「膠について」「地塗りについて」「下地研究：エマルジョン地」を配布する。

□ 参考文献、参考資料 『絵具の科学』ホルベイン工業（株）、中央公論美術出版、平成四年 三版、『アーティスト・マニュアル』STAN SMITH, PROFESSOR H. F. TEN HOLT 監修、黒江光彦、向井周太郎、徳橋昭三、川島重治、高橋揚一、桜庭祐介訳、メルヘン社、1987年

- 【実習名】 凸版実習
 【期 間】 12月9日(月)～12月20日(金)
 【教 室】 油画1年実習室
 【担 当】 香川 亮 非常勤講師
 【課 題】 水性多色摺り木版画制作

【授業概要】

木版画におけるイメージが版によって変化する表現の面白さと、数版を用いて制作する多色摺り木版画の基礎を学ぶ。3版～6版の版を作り、多色摺り木版画を制作します。1版ごと版を重ねるに従って、絵として木版画が完成されていくことを求めます。木版版を重ねて作品を創り上げるという事を求めます。

【学習目標】

木版画の彫りや摺りの技法を理解し、基本的技術を習得する。多色摺り技法や様々な木版画表現を試み各自作品化する実習制作を求める。

【授業計画・方法】

1. 教室準備、実習内容説明、 エスキース、アドバイス
 2. エスキースを見て制作工程の説明、
 3. 摺りの実演 エスキース
 4. 彫りの説明 各自制作 エスキース
 5. 彫り（1版～2版） （制作工程をアドバイスします。）
 6. 彫り（3版～6版） 各自制作
 7. バレンの摺り方と使用法
 8. ためし摺り 各自制作 アドバイス
 9. 床の制作と使用法について 各自制作 アドバイス
 10. 本摺り 摺り（乾いた和紙・濡らした和紙）
 11. 本摺り 摺り各自制作 アドバイス
 12. 本摺り カラーバランスと和紙
 13. 本摺り 摺り各自制作 アドバイス
 14. 作品の仕上げ （サインとエディションにつて）
 15. 道具の片付け 講評（ディスカッション） 提出
- ・（各自の学生準備）今までに各自が描いている内容のエスキースプランとして特に版画を意識しないで良いので(スケッチブックにあるようなエスキースを数枚)、内容は自由でいいので実習前に準備して下さい。出来れば色彩があるものが望ましい。
 エスキースサイズ (300×225mm程度)、縦横自由、用紙の種類は自由です。(コピー、写真も可)
 プラン、その他のデッサン資料、スケッチブック、素描道具、水彩道具、筆洗、その他。
 (※アクリル系水彩絵具は木版画には使用不可)
 - ・（専攻での準備）水彩絵具(木版用インク)、彫刻刀、シナ合板、楮手漉き和紙、機械漉き奉書紙、その他木版道具一式

【成 果】 水性多色摺り木版画2点の提出作品

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（出席と制作の取り組み）40% 成果作品の提出・評価60% による総合評価
- 基準 到達目標を目的として、履修規程に定める「授業科目の成績基準」に則り評価基準とする。

■【参考書・参考資料】(資料)等

- 教科書「現代木版画技法」日本の伝統木版画の制作（黒崎 彰 著）美術出版社
- テキスト プリント 水性木版画テキスト 版画研究室
- 参考文献 版画辞典 （室伏哲郎 著）東京書籍株式会社
- 参考資料 学生用参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21223	油画Ⅱ - I	6単位 前後	2	実技	知花 均 担任 金城 徹 非常勤講師

■テーマ 平面表現の探求を目的とする課題演習

■授業の概要

油画Ⅱ - Iでは、表現者として独創的な探求を可能とするドローイングの材料技法のアイデアをはじめ、事物世界におけるアクチュアルな気づきを創作へ移行することを可能とする現代美術演習、凹版実習による転位表現に関する実習をする。

各課題の流れは導入時のスライド・レクチャーとワークショップを経て、各自の制作へ続き、クラスディスカッションでの課題作品の発表を通じて、課題の解釈や着眼点、作品の構想と制作を深める言葉とともに、課題テーマに端を発して、主体的な創作活動が展開できるよう考慮して授業を進めていきたい。各課題の経過時には自己評価書を設け、自己の課題制作の実態とその経験を反芻し、検証する。また、前期の課題制作に関するポートフォリオを作成する。

■到達目標

- ・ドローイングの画材と定着の処方と制作ができる。ドローイングとしてグリザイユを習得し自在に扱うことができる。
- ・事物世界におけるアクチュアルな気づきを創作活動に反映させ考察することができる。
- ・凹版形式の版画プロセスによって転位表現の手法を作品制作を通じて経験できる。
- ・各課題の自己評価書、ポートフォリオを提出する。

■授業計画・方法

1. 制作I「ドローイング実習」 スライド・レクチャー：参考資料紹介
2. ドローイング制作 画材と定着剤の処方について
3. 自己の身体(存在)を主題とするもの
4. 裸婦モデルによる：グリザイユの
5. 自由ドローイング：ドローイング(コミュニケーション展へ向けたもの)
6. ※ 工芸実習のため休講
7. ↓
- 8.
9. 制作II「現代美術演習 紙を使つてのワークショップー日常の紙を使つて」スライド・レクチャー
10. プラクティス1; 個人で取り組むもの、設置および写真、ビデオによる記録。
11. 制作
12. プラクティス2; クラス共同で取り組むもの、設置と記録、ディスカッション
13. 制作III 凹版とコラグラフの実習: 導入と参考作品参照、版種の特性について
14. 制作
15. 制作 芸術資料館の収蔵品閲覧、版表現の多様性について

※定期試験は実施しない。

■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

- ・ポートフォリオ作成へ向けて、課題制作の写真記録や制作ノートをとること。
- ・授業で紹介された美術家や文献を調べること。
- ・県内外の美術館、博物館など、作品を可能な限りたくさん見ること。

■成績評価の方法・基準

- 方法 全三課題の評価 90%、ポートフォリオ10%とし、通年を総合的に評価します。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

- テキスト 実習ごとに記載
- 参考文献 実習ごとに記載
- 参考資料 実習ごとに記載

【実習名】 制作Ⅰ：ドローイング制作

【期間】 4月8日(月)～5月24日(金)

【教室】 油画2年実習室

【担当】 知花 均、金城 徹、非常勤講師

【課題】 ドローイング制作、油彩アンダーペインティングを含む

1. 「自己の身体性(存在)を題材として作品化できないだろうか」(アラベール紙B全紙2枚による)
2. 裸婦モデルのドローイング(アラベール紙もしくは木炭紙倍版 1枚)とグリザイユの応用による(F40号1点)
3. 自主ドローイング(ドローイング・コミュニケーション展へ向けて)

【授業の概要】(テーマ) ドローイングと油彩によるアンダーペインティング

身体に関連した二つの異なる題材によるものおよび学生自身が主体的に設定する題材によるものの3課題を行う。題材から各自、課題(着眼点)を求め、プラクティスとして各自のドローイングを作品化していく。手法や応用など自在で多彩な取り組みができるよう柔軟な方法論を実践的に学ぶ。自己の身体性(存在)を題材とするドローイングでは紙を支持体とし、使う様々な素材やテクニックを自由とする。裸婦モデルを題材とするプラクティスはキャンバスに油彩でアンダーペインティングの手法から取り組むものとする。

このほか、描画材(木炭、パステル、クレヨン)、定着液、絵具(エンコスティック、アラビアゴム溶液媒体の絵具)の作り方と処方のワークショップを行う予定。※ドローイングコミュニケーション展は9月開催予定。出品の詳細は出品要項を参照。

【到達目標】

- ・ドローイングの画材・定着の処方を理解し、表現方法を創意工夫することができる。
- ・ドローイングの延長でキャンバスにグリザイユ画法を応用して自在にペインティング制作できる。
- ・他学年との合同の展示作業を通じて資料館の使用法、展示方法について学ぶ。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス ドローイングの支持体・画材・定着液などの処方、油彩の溶き油について
2. ドローイングの素材についてデモ(水張りパネル、布張りパネルなどシルク枠によるドローイング)
3. スライドレクチャー(オールドマスターのデッサンから現代のドローイングへ)
4. 課題1:「自己の身体性(存在)をドローイングの手法で作品化できないだろうか」(全紙大2枚)
5. 自己の身体を主題とした作例に関するレクチャー;スライドレクチャー・DVD
6. 制作
7. 課題2:「裸婦モデルのドローイング」
8. 自由なドローイング(アラベール紙もしくは木炭紙倍版)1枚とクロッキー帖による
- 9.
10. キャンバスにグリザイユ画法による(F40号 100×80)
11. 課題3:「自主ドローイング(ドローイング・コミュニケーション展へ向けて)」
12. 制作
13. 制作
14. 鑑賞会・ディスカッション、作品の写真撮影、ポートフォリオ作成、自己評価書の作成
15. ※ドローイング・コミュニケーション展(9/4-8 搬入9/2-3 搬出9/9) 各自コメント発表

【成果物】

- ・自己の身体(存在)を主題とするドローイング・・・アラベール紙B全紙2枚による
- ・裸婦モデルによるドローイング・・・アラベール紙B全紙もしくは木炭紙倍版1枚、グリザイユ(F40 油彩1点)
- ・油画技法のプラクティス1.2.3.・・・

【評価の方法・基準】

□方法 提出作品60% 平常点30% 自己評価書10%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

□テキスト 「水平線の恐怖」榎倉康二のエッセイ、20世紀美術のスライド、過去の学生作品写真など。

□参考文献(資料) 世界の素描全36巻 講談社、近代日本洋画素描大系全5巻 講談社、

『人はなぜ絵を描くのか』中原佑介編著 フィルムアート社、『鏡と皮膚』谷川渥著 ちくま学芸文庫

『しぐさの民俗学』常光徹著 ミネルヴァ書房、□参考資料 ジャスパージョーンズ・クレーのドローイング 他。

【実習名】 制作Ⅱ : 現代美術演習

【期間】 6月18日(火)～ 7月5日(金)

【教室】 油画2年実習室

【担当】 知花 均、金城 徹、非常勤講師

【課題】 現代美術演習-日常の紙を使って作品化できないだろうか。

・プラクティス1: A3サイズ 1000枚の「紙」を使って作品化の状況を写真記録する。(もしくはビデオでペアで取り組むことによる利点もあるので検討する。

・プラクティス2: クラスでのワークショップ。資料館第一展示室での規模の大きなプランニングによる。

※詳細は別紙を参照。

【授業概要】 (テーマ) 日常の紙を使って作品化できないだろうか。

日常的に見られる素材の中から「紙」を使って実習を行います。私たちは、事物世界に自己の感覚を問いかけるとき、身近に例えばそれを「紙」と名指したときに、そのモノへの対し方(認識、扱い方、感情)に、ある種の社会通念をもって対する傾向があることに気付くのではないだろうか。言わばモノに対して、名称化された世界の中で制約を受けながら、感じ、認識し、接触しているのではないかと。この実習では名称化された世界を疑うこと、モノやその状況に対し自己の知覚を開放することを通して、新たな気づきを捉えていくことができるかを共に考えていきたい。名称性を乗り越え物質を介して、場や事物世界との新たな出会いの可能性を知覚に問いかける授業としたい。

【到達目標】

・物質的な特性、身体との関連、他の物質との組み合わせや場との関係性から作品化し、記録することができる。
・演習の趣旨を理解し、応用表現を構想することができる。物質を介して場(空間)をあるいは他の物質との関係から作品化することができる。

【授業計画・方法】

1. 導入 スライド 日本の70年代における現代美術の問題意識について(作家の言葉から)
2. DVD 「リーウーファン」 ディスカッション
3. 「紙」によるワークショップ
4. プラクティス1; 個々の取り組み。作品の設置、状況を写真で記録する。(もしくはビデオで)
5. 身体との関係、場との関係、他の物質との関係から自身で実践と記録1
6. 自身の実践と記録2
7. 写真記録の報告会 ディスカッション
8. 場との関係から実践と記録1
9. 自身の実践と記録2
10. 写真記録の報告会 ディスカッション
11. 全員によるワークショップ 芸術資料館展示室にて 1
12. ロール紙全紙大 50枚によるもの、新聞紙によるもの。2
13. 写真記録と制作プランのスケッチ、ノート
14. ドローイング
15. ワークショップのポートフォリオ制作
16. 自己評価書の作成

【成果物】

- ・プラクティス1とプラクティス2による記録写真と制作ノート(ポートフォリオへ)
- ・プラクティス1, プラクティス2に基づくドローイング 1点
- ・応用表現のためのドローイング 1点
- ・自己評価書

【評価の方法・基準】

- 方法 ポートフォリオ・ドローイング 60% 平常点 20% 自己評価書 20%
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- テキスト プリント「現代美術演習 紙で遊ぶ」
- 参考文献 『榎倉康二展』 展覧会カタログ 2005年東京都現代美術館、『榎倉康二作品集 1969-1989』 博進堂
『陰影礼賛』 谷崎潤一郎著、『日本人にとって美しさとは何か』 高階秀爾著

【実習名】 制作Ⅲ : 凹版・コラグラフによる実習

【期間】 7月8日(月)～ 7月26日(金)

【教室】 版画工房

【担当】 知花 均、金城 徹

【課題】 銅版画、コラグラフの基礎実習

【授業概要】

凹版種の中の凹版形式およびコラグラフの基礎実習を行います。芸術表現としての凹版の版材は金属板に限らず木板、プラスチック板、厚紙などに凹版の原理に従って創意工夫することが可能ですが、実習では15世紀のヨーロッパに起源をもつ銅版画技法から直刻法(ドライポイント)と腐蝕法(エッチング)による製版技法と刷りにいたる基礎実習を行います。また、コラグラフは20世紀に登場した版技法ですが厚紙や塩ビ板などの版材にコラージュの手法で物質を貼り製版するもので、フロッタージュや凹凸版刷りなどとの関連を学び、応用表現を学びます。

このほか現代の凹版表現の紹介、額装の基礎知識と方法、エディション管理、作品の保管方法について学びます。

【到達目標】

- ・銅版画の特性と道具、材料、腐蝕液の扱いを理解し、直刻法、腐蝕法による銅版画を制作することができる。
- ・コラグラフの特性を理解し、試作することができる。

【授業計画・方法】

1. 導入 凹版形式の特性について 参考作品の紹介
2. 銅版画のプレートの準備：裁断、裏止め、プレートマーク作り、研磨
3. 直刻法のデモンストレーション(ドライポイント、エングレービング、メゾチント)
4. 各自、直刻法による制作：ドライポイントによる製版(ニードル、サンドペーパー)
5. 刷りの指導、各自の試刷り、本刷り
6. 腐蝕法によるテストプレート制作：腐蝕による製版の原理、腐蝕液の管理・取り扱いについて
7. ラインエッチング、アクアチント
8. ソフトグラウンドエッチング、リフトグラウンドエッチング 他 試刷り
9. 各自の作品制作(直刻技法、腐蝕法を使つての制作)：下絵作成と製版のプランニング 個別指導
10. 下絵と製版のプランニング指導
11. 製版、試刷り、本刷り
12. コラグラフ制作 製版のデモンストレーション 刷りの実演
13. 各自の制作：版作り 素材集め 製版 刷り(凸版刷り、凹凸版刷り)
14. 芸術資料館の版画収蔵作品の閲覧
15. カルトン作り 実習作品の鑑賞会 作品提出 片づけ

【成果物】

- ・銅版画の作品(ドライポイント、エッチング)
- ・コラグラフの作品(凸版刷り、凹凸版同時刷り)

【評価の方法・基準】

□方法 作品 60% 平常点 30% 自己評価書 10 %

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(作品)等】

- テキスト プリント「凹版実習」、「平版実習」
- 参考文献 『版画史解剖—正倉院からゴッホまで—』黒崎彰著 阿部出版株式会社 他。
『中林忠良の腐蝕銅版画』アートテクニックナウ 15 河出書房新社
『NANGA 東西交流の波』東京芸術大学版画研究室編集 東京新聞発行
『版画芸術の饗宴ケネス・タイラーと巨匠たち 1963-1992』横浜美術館学芸部
『版画辞典』室伏哲郎、『現代版画コレクター事典』長谷川公之
- 参考資料 長谷川潔、深沢幸雄、野田哲也、清塚紀子、中林忠良、原健、フランクステラ、学生作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21224	油画Ⅱ - Ⅱ	7単位 後	2	実技	知花 均 担任 金城 徹 非常勤講師

■テーマ 平面表現の探求を考察する課題と自主制作

■授業の概要

油画Ⅱ - Ⅱでは、絵画を複数の平面の並置および場(空間)に設置することによって探求する平面表現の応用課題演習、後半には進級展へ向けて各自の主眼的な構想による平面制作を実施し、三月に学内で進級展を開催します。各課題の流れは導入時のスライド・レクチャーとワークショップを経て、各自の制作へ続き、クラスディスカッションでの課題作品の発表を通じて、課題の解釈や着眼点、作品の構想と制作を深める言葉とともに、課題テーマに端を発して、主体的な創作活動が展開できるよう考慮して授業を進めていきたい。各課題の経過時には自己評価書を設け、自己の課題制作の実態とその経験を反芻し、検証します。また、後期の課題制作に関するポートフォリオを作成します。三月に進級展を開催し、自選の課題作品と自主テーマによる作品、ポートフォリオを展示します。

■到達目標

- ・複数の平面の並置関係および場(空間)に設置することによる平面表現をすることができ、関係性について考察できる。
- ・主体的な独自の平面制作において作品を自ら構想し制作工程を経験して、進級展で発表することができる。
- ・各課題の自己評価書および年間のポートフォリオを提出する。

■授業計画・方法

1. 制作V 「複数の平面の並置関係と場(空間)に設置することによる課題制作」 スライドレクチャーとワークショップ
2. プラクティスA,
3. 制作
4. プラクティスB
5. 制作 応用表現の可能性を考察する
6. 古美術研究旅行
7. ↓
8. 制作VI 「主体的な平面制作」 導入とスライドレクチャー
9. プランニングとエスキース 関連する作家研究 ・ディスカッション
10. 制作 画材等の準備と小品による試作、本制作への展開
11. 制作 個別指導
12. 制作 個別指導
13. 制作 個別指導
14. 制作 クラスディスカッション
15. 制作 提出 ディスカッション 進級展で作品を展示。ポートフォリオの制作・提出。

※定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・ポートフォリオ作成へ向けて、課題制作の写真記録や制作ノートをとること。
- ・授業で紹介された美術家や文献を調べること。
- ・県内外の美術館、博物館など、作品を可能な限りたくさん見ること。

■成績評価の方法・基準

- 方法 全二課題の評価 90%、ポートフォリオ10%とし、通年を総合的に評価します。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

- テキスト 実習ごとに記載
- 参考文献 実習ごとに記載
- 参考資料 実習ごとに記載

【実習名】 制作Ⅳ 複数の平面の並置関係および場(空間)に設置することによるプラクティス

【期間】 10月1日(火)～10月29日(火)

【教室】 油画2年実習室

【担当】 知花 均 金城 徹 非常勤講師

【課題】 複数の平面の並置関係および場(空間)に設置することによる応用課題演習

- ・プラクティスA；合板による作品（合板の加工、設置場所、他の材料との組み合わせは自由）合板三六判一枚
- ・プラクティスB；自身で撮った複数の写真を並置して作品化する。5点
写真はコピー機で拡大するなど加工は自由。
- ・各自のテーマによるプランニングを作成する。（平面性に基づくこと）

【授業概要】 （テーマ）複数の平面の並置および場(空間)に設置することによる応用課題演習

複数の平面の並置および複数の平面を場(空間)に設置する関係性から平面表現を探求する応用課題演習とします。平面表現を巡って「関係性」や「設置」を考察するこの演習は、平面表現と平面を空間へ展開するインスタレーションとの関連性を持ち、様々な応用表現を考察する契機となります。二つのプラクティスを設け、与えられた制約の中で試行される作品から考察していきます。

【到達目標】

- ・複数の平面の並置や空間に設置することによる表現の意義や応用の幅を理解できる。
- ・課題を実践し、表現の幅を広げることができる。
- ・課題作品の展示とディスカッションを通じて自身の考察を持ち、自己評価書に記載することができる。
- ・応用表現として複数の平面の関係性および場に設置することによる作品制作のプランニングをすることができる。

【授業計画・方法】

1. 導入 スライド・レクチャー
2. デモンストレーション： 「合板と紙を使って」 芸術資料館 第2展示室(10/3-4 午後)
3. プラクティスA
4. プラクティスA の個別制作
5. ディスカッション
6. プラクティスB
7. プラクティスB の個別制作
8. 作品設置 ディスカッション
9. 応用表現のプランニング
10. 個別指導
11. 応用表現のエスキース
12. 制作
13. 制作
14. 作品展示(芸術資料館もしくは地下ワークスペースにて) ディスカッション
15. 自己評価書の作成、作品の写真撮影 ポートフォリオ提出

【成果物】

- ・プラクティスA；自身で撮った写真を使い二枚組による作品 5点
- ・プラクティスB；二枚の合板による作品（合板の扱いや設置場所は自由）
- ・自主テーマによる制作のためのプランニング

【評価の方法・基準】

□方法 成果物 60% 平常点 30% 自己評価書 10%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献（作品）等】

- テキスト プリント「平面の関係性による表現について」
- 参考資料 現代作家（ロバート・ラウシェンバーク、デヴィッド・ホックニー、ジェニファー・バートレット他）
- 参考文献 『榎倉康二・写真の仕事』（松尾子水樹編 斎藤記念川口現代美術館 1994年）
『混成系』（宇野邦一、青土社）、『現代美術へ』（三井滉、文彩社）他。

【実習名】 制作Ⅴ 進級展へ向けた各自の平面表現

【期間】 11月18日(月)～1月24日(金)

【教室】 油画二年生実習室

【担当】 知花 均、金城 徹、非常勤講師

【課題】 自主テーマによる平面制作

【授業概要】 (テーマ) 主体的な平面表現

進級展へ向けた各自の主体的な平面制作を実施します。これまでの実習で取り組んだ成果や課題、あるいは自己の平面表現を確かめるために必要な手法や材料を通して、各自の主体的な制作を求めます。自ら作品の構想を練り、制作過程(着想、構想を練ること、エスキース、試作、本制作)を経験することにあります。主体的に平面表現に取り組むことを通じて表現者としての着眼点や作品を発信することを実践的経験を積むことにあります。指導はチュートリアル(個別、クラス)で行うこととし、制作過程の各段階、経過を見ながら指導助言を行います。

【到達目標】

- ・作品制作の構想を練り、各自の制作プロセス(取材や材料収集、ドローイングから作品を完成させるまで)を構築し、作品制作に取り組むことができる。
- ・作品制作のねらいや動機など、創作の文脈をコメントすることができる。
- ・制作の記録や制作ノートをとることができる。作品発表を通して様々な観点から課題を見つけることができる。

【授業計画・方法】

1. 導入 スライドレクチャー、参考文献の紹介 進級展のスペースについて
2. 作品制作のプランニングのディスカッション
3. プランに関するチュートリアル期間 (個別、クラス) 指導ポイントは別紙参照。
4. プランに関するチュートリアル期間、(1回目指導後、2回目制作プランを確認する)
5. ドローイング制作
6. 取材・ドローイング制作
7. エスキースを交えた中間のクラスディスカッション 本制作の準備
8. 小品による試作
9. 本制作の準備
10. 制作
11. 制作
12. 制作
13. 作品の提出 クラスディスカッション
14. ポートフォリオ制作、提出
15. 進級展での作品展示・ポートフォリオの展示、ディスカッション

【成果物】

- ・進級展での平面作品(ドローイングを含む)

【評価の方法・基準】

□方法 作品 60% 平常点 20% 自己評価書 20%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(作品)等】

□テキスト 知花資料(美術手帖2004年7月号『南の光にかざす(境界)のシルエット』知花均 鷹見明彦文)『ホルベイン画家たちの美術史』Web上での閲覧可能。美術手帖2003年2月から2009年まで連載。

この連載は国内の有名無名問わず国内外で活躍する美術家を取材した連載エッセイ

□参考文献 『意味の果てへの旅』宇野邦一著 青土社、『芸術・思想家のラストメッセージ』石原洋一編 フィルムアート社

□参考資料 「境界域KINA」240×200 知花作品 沖縄県立博物館・美術館収蔵品 他

【実習名】 創作研究Ⅰ（ドローイング制作）

【期間】 4月8日(月)～5月17日(金)

【教室】 油画3年生アトリエ

【担当】 田中睦治・非常勤講師

【課題】 ドローイング制作とその研究を通して、日常制作の素材と表現テクニックの幅を広げる。

【授業概要】 この授業では、はるか太古の現世人類が残した洞窟壁画や幾何文様や日本の縄文時代の線刻による考古物の鑑賞から出発し、レオナルドからバロック、ロマン派や印象派、現代の抽象表現主義・コンセプチュアルアートに至るまでの作家の素描やドローイング作品、線描画などに幅広く触れる。ドローイングやデッサンの描写技術を高める手段としてではなく、イメージ豊かな世界観や現実感を創り上げる身体表現の一方法であると位置付ける。一本の線を引いたり、引っかいたり、ひとつの染みをにじませること等の意味を問いかけ、様々な紙や描画素材を併用した実習へ展開して、自在なドローイング表現の奥行きと可能性を探索する。

【到達目標】

- ・美術の歴史の中での素描やドローイングの役割と知識を豊かにし、現代の絵画表現の多様性と可能性を理解できる。
- ・素材応用研究を通して、紙と描画材の知見を豊かにし、自身のアイデンティティーに添った表現方法を身につける。
- ・等身大以上のドローイング大作に挑むことで、身体表現としての平面制作のフットワークを養う。
- ・ドローイングコミュニケーション展（9月予定）への出品を通して、他者との相互理解の環境を自ら育む事が出来る。

【授業計画・方法】

前半／

- 1 授業概要の説明、春休みの宿題となるドローイングの講評。
- 2 各時代、各作家のドローイング、素描の作品を鑑賞しながらドローイング表現の講義。
- 3 人体クロッキー・デッサンによるウォーミングアップ。素材の応用。
- 4 いろいろな紙（水彩紙、画用紙、木炭紙、和紙、写真）や配布するアラベール紙に鉛筆・木炭・墨・インク・水性/油性色鉛筆・クレヨン・クレパス・塗料・水彩絵の具・ガッシュ・アクリル・エナメルなどの描画材料を使い素材研究を兼ねながらドローイングを行う。ドローイングの技法紹介。
- 5 中間講評。ドローイングに関する3作家ビデオの鑑賞。
- 6 人体・静物・日常の風景などの描写、線遊びなどの行為の集積、抽象的なイメージドローイング、象徴的な図像や一筆描き、無意識的な落書きなどの作例を参考に自身のアイデンティティーに添った表現方法を開拓する。
- 7 面接を兼ねた個別講評
- 8 各々が何をどのように描いてゆくと自分らしい資質と向き合えるのか、個別の係わりの中で制作を行う。
- 9 ドローイングコミュニケーション展出品制作（一人アラベール紙B全2枚の大きさ）
- 10 前半講評。

後半／

- 11 等身大以上のスケールの画面にドローイングを行う。
- 12 壁面に等身大以上の画面をアラベール紙を継いで作り、身体の動きと連動したドローイングを制作する。
- 13 画面の構成について検討。
- 14 私物を一旦廊下に出し、教室をギャラリー空間にして全員で相談の後、展示作業を行なう。
- 15 ディスカッション。作品の前で自作についてのプレゼンテーション。

【成果物】 ・ドローイング試作。・ドローイングコミュニケーション展参加作品（B全紙2枚）

・等身大以上のドローイング作品1枚、ビデオ鑑賞レポート

※展示／図書芸術資料館にて他学年と共同して授業報告展となるドローイングコミュニケーション展をおこなう。（期間は9月下旬の予定）

【評価の方法】

- ・提出ドローイング作品全体を評価（60％）。
- ・中間講評、個別講評、等身大以上のドローイング時の自作プレゼンテーションを評価（10％）。
- ・ドローイングコミュニケーション展中のギャラリートークを評価（10％）。
- ・ビデオ鑑賞トークディスカッション（10％）。平常点を評価。（10％）

【基準】・到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考図書（作品）等】

- ・テキストは授業の中で配布。
- ・素描体系Ⅰ～Ⅳ（講談社）、ドローイングの技法百科（グラフィック社）等

- 【実習名】** 創作研究Ⅱ・ミクストメディア（平面の展開①） 創作研究Ⅳ・ミクストメディア（平面の展開②）
【期間】 前半/5月20日(月)～6月14日(金)、後半/7月8日(月)～7月26日(金)
【教室】 油画3年生アトリエ
【担当】 田中睦治・非常勤講師
【課題】 ミクストメディア研究を通して20世紀美術を見渡し、平面制作における複合(混合)技法の領域をひろげる。

【授業概要】 ミクストメディア(複合技法)による様々な素材研究とバリエーションの試作を通じて、自らの感性で測られた、もの性(材質感や物質感)と空間性(視覚性やイメージ性)を高めた表現形態を実習と講義で探る。様々な新しい創造の可能性を多角的に探った20世紀美術を振り返りその中で培われたパピエ・コレ(ピカソやブラックなどが用いた貼り絵の技法)、メルツやコラージュ(シュビッターズやダダイストが用いた物体を貼り付けたを組み入れ斬新なイメージを引き出そうとした、技術的な制約を受けないこれらの複合技法(ミクストメディア・フォトコラージュを含む)が、現在の芸術家にいかに大きな影響を与えているか検証しながら制作を展開する。

【到達目標】

- ・ミクストメディア表現技法の歴史的展開、意義、内容を理解することができる。
- ・自身の制作の中で各々のミクストメディア(混合技法)を実践し、現時点での素材表現の枠を広げる事ができる。
- ・作品の空間設定、表現形態についての見識を広め、応用することが出来る。
- ・色彩研究を通して、多角的な見識を広め、自己分析能力を高める事が出来る。

【授業計画・方法】

前半/創作研究Ⅱ・ミクストメディア（平面の展開①）

- 1 ガイダンス、ミクストメディア表現について、画像を使った概説がある。
- 2 前半の素材研究、エスキースや制作プランニング。
- 3 作家研究(画像撮影)、学生各々のミクストメディア作家の個別調査。
- 4 作家研究ディスカッション。それぞれ画像を持ち寄り作家研究のプレゼンテーション。
- 5 作品制作(小作品10点以上)
- 6 素材研究として油彩オイルや塗料、ドローイング材料の研究
- 7 素材研究としてコラージュやオブジェの収集と応用研究。

後半/創作研究Ⅳ・ミクストメディア（平面の展開②）

- 8 検討テーマ「作品の構成について」
- 9 教室ないしは許可を得た場所で、壁面、床、ライティングなどのセッティングを考慮して制作。
- 10 色彩研究(講義・ワークショップがある)
- 11 検討テーマ「画面の側面の扱いについて」
- 12 検討テーマ「シェイプトキャンパスについて」
- 13 中間ディスカッション
- 14 検討テーマ・展示/インスタレーションについて(壁面や床を含む場の構成について)
- 15 ディスカッション前日に私物を一旦廊下に出し、教室をギャラリー空間にして全員で相談の後、展示作業を行なう。(壁面を使う場合100号以上、床を使う場合150号以上のスケールで行う。)それぞれの作品の前でディスカッションを行います。
- 16 作品撮影・制作過程を撮影し、個人資料作りを行なう。

【成果物】

- ・前半、作家研究資料、素材研究資料と小作品(10点以上)、エスキース、プランニング
- ・後半、ミクストメディア研究による作品、色彩研究ワークショップ作品、感想ノート

【評価の方法】

- ・前半、成果物全体を評価(60%)、ディスカッション時のプレゼンテーション(20%)、平常点(20%)
- ・後半、成果物全体と制作資料を評価(60%)、ディスカッション時のプレゼンテーション(20%)、平常点(20%)
- ・上記の評価には制作の前段階で資料などリサーチする力、自身の作品や考え方をプレゼンテーションする能力、制作における独創的な創作力、記録化してまとめあげる整理能力などが含まれる。

【基準】・到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(作品)等】

- ・テキスト、参考文献は授業の中で配布。
- ・参考図書・作品は授業の中で紹介する。

【実習名】 孔版実習

【期 間】 6月17日(月)～7月5日(金)

【教 室】 版画工房 (美術棟)

【担 当】 高崎 賀朗、非常勤講師

【課 題】 孔版 (シルクスクリーン) による版画集制作

【授業概要】 (テーマ) 孔版 (シルクスクリーン) は、作品制作としての版画技法に限らず工業製品からTシャツなどのプリント等、幅広く活用されている印刷技法でもある。実習では、孔版についての歴史・原理と特徴・作品紹介等により孔版表現への理解を深め、作品制作を通して写真製版法の技法・技術を習得する。各自の制作テーマによる孔版表現技法を生かしたエディション作品の制作を行う。そして、各自の制作過程と共同による制作過程を通して最終的に版画集としてまとめる。シートサイズの中での自己表現とイメージを量産する複数性、コミュニケーションとしての版画集の位置づけについて考える。

【到達目標】

- ・ 作品制作を通して孔版表現の特徴について理解を深め写真製版法の技法を習得できる。
- ・ 各自の制作テーマによる孔版表現技法を生かしたエディション作品の制作ができる。
- ・ 各自の制作過程と共同による制作過程を通して最終的に版画集としてまとめることができる。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、版画室準備、スクリーンの準備、エスキース制作
2. 講義「シルクスクリーンの歴史・原理と特徴・作品紹介」、原画用紙配布
3. 描画説明 (テスト版)、原画制作描画説明 (テスト版)、原画制作
4. 感光乳剤の制作説明、準備、製版説明
5. インク準備、摺り説明、試し摺り、インク除去
6. 版再生説明、フィルム描画説明、フィルム描画
7. エディション作品制作：1版目のフィルム描画、製版、摺り、版再生
8. エディション作品制作：2版目のフィルム描画、製版、摺り、版再生
9. エディション作品制作：3版目のフィルム描画、製版、摺り、版再生
10. エディション作品制作：4版目のフィルム描画、製版、摺り、版再生
11. エディション作品制作：5版目のフィルム描画、製版、摺り、版再生
12. エディション作品制作：各自のエディション制作終了日
13. 版画集タトウ制作、タトウ用紙の断裁、表紙・奥付の原画制作、表紙・奥付のフィルム描画、製版
14. 版画集タトウ制作、表紙・奥付の摺り、タトウ組み立て、内表紙制作、作品サイン入れ、作品タトウ詰
15. 版画集完成、版画室片付け、ディスカッション、コメントペーパー及び作品提出

※定期試験は実施しない。

【成果物】 孔版 (シルクスクリーン) による版画集制作

【評価の方法・基準】

□方法 成果作品60%、平常点 (授業への取り組み状況) 20%、コメントペーパー20%により総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献 (資料) 等】

□ テキスト 授業内にプリント「シルクスクリーンテキスト」を配布する。

□ 参考文献、参考資料 『版画の技法と表現』 執筆者 河野実、佐川美智子、箕輪裕、滝沢恭司、内田啓一、今井圭介、杉野秀樹、町田市立国際版画美術館、2003年改訂第二版 (1987年刊)、『世界版画史』 青木茂 監修、美術出版社、2001年

【実習名】創作研究Ⅴ・色材研究（工芸的な伝統手法による造形表現）

【期間】 10月1日(火)～10月30日(水)

【教室】 3年生油画アトリエ

【担当】 田中 睦治、平井 真人(非常勤)

【課題】 工芸的な伝統手法の染色技術を応用した色材研究(染料、顔料)と造形物によるインスタレーション実習

【授業概要】 この授業は、一週間の基本となる空間表現トレーニングを終えた後に、絵画表現の延長として素材・色材研究を兼ねて伝統手法で布を好きな図柄に染める実習を行う。そして自ら染めた布を日常空間の延長の様々な場所に持ち込み設置して、「場所」との関係化を試み記録する。布のもつ特性や物質性にこだわりながらも、制度的、歴史的などの社会的眼差しの中での布の在り方にも踏み込んでディスカッションを行う授業である。

【到達目標】

- ・伝統手法の染色技術・基礎を習得し、色材（染料・顔料）の応用として絵画表現への幅のある素材応用と活用技法を習得する。
- ・制作した造形物を様々な場所で設置することにより、制度的、社会的なまなざしの中で多義的な見解を検討できる。
- ・キャンパスも含めて布の持つ制度的、歴史的な役割を理解し、制作を通じた自らのアイデンティティーの確認と積極的な働きかけに対して社会的、文化的な意義を模索できる。

【授業計画・方法】

- 1 ガイダンス、画像を使ったインスタレーション表現の概説がある。
- 2 ベーシックトレーニング・デジタルカメラで記録
一辺300mmの単一素材（物質）による立方体をつくり、日常の中のいろいろな場所に設置して、その物の存在の様々な在り方を観察してデジタルカメラで記録する。（公園、樹木、街角、部屋、窓際、階段、海岸、水辺、林、道路、屋上、通路、聖域、市場、など）
- 3 記録した画像を基に、ディスカッション。
- 4 ガイダンス、布の作品展開を映像で紹介
- 5 講義「布と染料の関係」
- 6 木綿布の前処理〈糊抜き・精練・漂白〉
- 7 染色実験〈レマゾール染料による色見本作り〉
- 8 型(版)による表現(演習)
- 9 色材(顔料・染料[天然・化学])による表現(演習)〈Tシャツなど〉
- 10 定着、色止めの方法
- 11 プランニングと個別的な技術指導
- 12 仕上げ
- 13 展開1、アトリエでの仮設置とディスカッション。
- 14 各自作品制作とインスタレーションを実行。デジタルカメラで記録。
- 15 個々の記録をプロジェクターで投影し、映像によるプレゼンテーション発表と最終ディスカッションを行なう。

【成果物】 作品、染色実験資料（ファイル）をまとめたもの、プランニング
インスタレーショントレーニングで撮影したデジタルデータ。本作品設置データ。

【評価の方法】

- ・ベーシックトレーニングの成果画像とディスカッション（20%）
- ・本作品、試作、染色実験資料（ファイル）、プランニングペーパー、デジタルデータなどの提出物を評価（60%）
- ・プレゼンテーション、ディスカッションの内容を評価（20%）

【基準】 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献（作品）等】

それぞれの過程で、テキストの配布、文献の紹介、参考作品の直接閲覧を行う。

【実習名】 創作研究Ⅵ・アートパフォーマンス

【期間】 11月5日(火)～12月6日(金)

【担当】 田中 睦治・山城千佳子 (非常勤)

【課題】 映像によるアートパフォーマンス(身体による直接表現)の理解と制作。

【授業概要】 実習と講義は、人とそれを取り巻く社会環境や人同士のコミュニケーションの成り立ちを問い、学生自身の一回性の行為＝身体表現を映像で記録して、それらを互いに見ながらディスカッションを行う。

自己の身体を媒介にした様々な行為を繰り返しながら、世界と自己のつながり、たとえば制度と自己の関係や、場所と自己の関係、他者と自己の関係を模索しながら、広く表現における身体相互の在り方を、学生自身の日常生活や地域の中で問う映像表現の授業である。

【到達目標】

- ・デジタル映像の撮影と編集技術の習得と作品公開の際のプレゼンテーションを高めることができる。
- ・自身の社会との関係や、対人関係等を映像表現にすることで、改めて日常生活の中で創作する意義を見出すことができ、コミュニケーションを図ることにより多角的な見解を理解できる。
- ・様々な物語る映像を構成することにより、自身のアイデンティティを確かめ、絵画表現を含めた創作に繋がるイメージ世界を豊かにすることができる。

【授業計画・方法】

- 1 導入/ガイダンス、アートパフォーマンスの世界の概説
- 2 学生作品鑑賞① (ビデオ)、プランニング開始
- 3 学生作品鑑賞② (ビデオ)
- 4 学生作品鑑賞③ (ビデオ)、鑑賞コメント
- 5 20世紀～21世紀のパフォーマンス作家作品鑑賞 (スライド)、鑑賞コメント
- 6 DVカメラ使用、パソコン編集方法説明
- 7 グループによる撮影実習①
- 8 グループによる撮影実習②
- 9 本作品プランニングと編集作業指導
- 10 個別にプランニングチェック
- 11 撮影を繰り返しながら、編集作業を続ける
- 12 中間試写会
- 13 編集作業の追加
- 14 タイトル・コメント整理
- 15 発表・プレゼンテーション・ディスカッション・提出用メディアへの書き込み

【成果物】

- ・アートパフォーマンス個別ノート (ガイダンスに配布)
- ・一人映像1作品 (一人20分以上～30分以内)

【評価の方法】

- ・アートパフォーマンスの表現について、その歴史や意義を理解し、自身の考えでもって取り組むことが出来たか。
- ・グループによる試作も含め、自身のコンセプトに沿って映像作品を作ることが出来たか。
- ・提出作品の内容において、他者とコミュニケーションが図れたか。

以上の観点を基に、映像作品 (50%)、試作作品 (10%)、アートパフォーマンス個別ノートの記述 (20%)、ディスカッション (10%)、平常点 (10%) の配分で評価

【基準】・到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【専攻準備】 DVカメラ、パソコンとも専攻での用意はあるが、自分でDVカメラ、ノートパソコンを持っている人は持参が望ましい。

【テキスト・参考文献 (作品) 等】 必要な資料は授業の中で随時配布。

【実習名】 進級展へ向けた制作 (創作研究Ⅶ)

【期 間】 12月9日(月)～1月24日(金)

【担 当】 田中睦治、非常勤講師

【課 題】 進級展へ向けた自主(自由)制作

【授業概要】 4月からのドローイングコミュニケーション、創作研究Ⅰ～Ⅴを通じて制作してきた内容や、自ら続けてきた自主制作Bなどを踏まえて、自身のテーマや表現方法にひとつの結果を出すための制作を行う。自らの作品ファイル作りも含めて、これまでの1年間の実習や自主制作、創作活動に学生自ら自己評価を与える機会として位置付け、進級展へ向けてプランニング、制作、仕上げに入る。

【到達目標】

- ・創作研究Ⅰ～Ⅶを振り返ることで、自身に適した表現メディアを再検証出来る。
- ・創作研究Ⅰ～Ⅶの成果物にさらに制作することで、作品の奥行きに深みを加える事が出来る。
- ・4年次を迎えるにあたり、卒業制作につなげる自己の表現方法見出し、制作・試作をスタートできる。

【授業計画】

後学期の始まりにガイダンスの中で授業の意義や取り組み、進級展について話し合いがある。

導 入／ ガイダンス(12月8日)

制作期間中／それぞれ個別に自主制作作品、制作ファイル作りとプランニングを元に面接を行います。

進級展／ 3月上旬に附属図書・芸術資料館で展示発表を行う。

最終日／ 油画教員全員が参加して会場でディスカッションを行います。

【成果物】 ●プランニング

●作品制作 (デジタルカメラで制作過程を記録)

評価の対象

- ・平面の場合(150号、又は100号2枚程度)
- ・立体表現の場合(平面と同じ広さの床面積)
- ・平面と立体を組み合わせたものも可。
- ・その他 版表現、映像表現も対象とする。
- 自身の作品ファイル(年間の作品をまとめたもの)一冊。
- 成果レポート(自己評価)提出(1月末)。

【評価方法】

- ・自由制作作品(60%)、プランニング(10%)、年間の制作ファイル(20%)、1月末のディスカッション(10%)、平常点(10%)の配分で評価

【基準】・到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【学生準備】ガイダンス前に伝達

【専攻準備】ガイダンス前に伝達

21421	油画Ⅳ	15単位 通年	4	実技	田中 睦治 知花 均	高崎 賀朗 金城 徹 非常勤講師
-------	-----	---------	---	----	---------------	------------------------

■テーマ 卒業制作によって社会に与える美術の力

■授業の概要

自己のテーマに基づく卒業制作を課題とする。卒業制作は段階的に取り組み、前期に試作から始まり、後期のスペース割り当てと展示プランなど美術館での展示へ向け、個々の制作と同時に共同での取り組みが求められる。前期報告展の場で試作の展示を実施し、卒業制作へ移行するための中間審査の対象とする。審査の観点は、テーマ、ねらい、技法材料、作品形態、スケール感など入念に試作が行われているかどうか。また、作品制作の文脈に自己の存在がどのように位置づけられているかなどが問われる。中間審査を経て卒業会場のスペースの割り当てが協議された上で、展示計画へ移行することが可能となる。後期はマケット演習で、展示プランを確定させ、本格的な制作へ移行し、12月は空間表現展を開催する。また、卒業制作の過程をポートフォリオにまとめ卒業作品展後に提出することとする。教員の実務経験を背景に作品発表の方法論や社会的役割について実践的に学ぶ。上記の定時指導以外に担当教員がオフィスアワーを設け、様々な相談に対応できるようにします。

■到達目標

- ・卒業制作のねらいや創作の文脈に、自己の存在がどのように関連するか明文化できること。
- ・卒業作品展で作品を発表することを通して、社会へ向けて新たな美術の力を発信できること。
- ・卒業制作の過程を記録し、ポートフォリオにまとめることができること。

■授業計画・方法

1. ガイダンス 卒業制作の授業の流れと求められること。過去の卒業制作の取り組みなどの紹介。
2. ドローイング制作 ドローイングコミュニケーション展へ向けて(芸術資料館にて)
3. 試作Ⅰの制作 (テーマ、作品形態、材料技法、設置方法、大きさなどについて探求する)
4. 制作 (中間ディスカッションと個別指導)、展示とディスカッション
5. 試作Ⅱの制作 (引き続き、テーマ、作品形態、材料技法、大きさなどについて探求する)
6. 前期報告展にて試作Ⅰ、試作Ⅱの展示とディスカッション (中間審査の対象) 自己評価書の提出、個別指導
7. 卒業会場の展示計画について(展示場所の割り当てを協議)
8. 後期、割り当てられた展示場所に基づくプランニングおよびディスカッション
9. マケット演習 (展示場所の割り当てに基づくプランニングの一環。平面および空間表現)
10. マケット演習では、ふたつのプランニングを行うこと。(芸術資料館での空間表現展、美術館での卒展)
11. 空間表現展は空間表現分野、平面表現分野いずれの場合でも参加を可能とする。
12. 空間表現展へ向けた準備(DM作成・広報、展示プラン、搬入搬出)(絵画表現の学生は別扱い)
13. 空間表現展の開催(卒展に準ずる展覧会として空間表現のカテゴリーに当てはまる作品の展覧会)
14. 卒業作品の図録作成についての取り組み(作品の撮影、ページレイアウト、制作コメント)
15. 卒業作品の提出、美術館での卒展へ向けた搬入(荷積み、作品燻蒸、展示)搬出のプランニング。卒展の開催、最終講評、ポートフォリオの提出

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・試作Ⅰ、試作Ⅱ、卒業制作の各制作過程を記録し、ポートフォリオ制作に反映させること。
- ・夏休み期間は卒制の準備期間として活用が可能となる。

■成績評価の方法・基準

□方法 卒業作品、試作Ⅰ・Ⅱ(70%)、平常点(20%)、ポートフォリオ(10%)

平常点は授業への参加状況と自己評価書の提出状況。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

□参考文献(資料) 『美の力』宮下規久朗著、『版画の技法と表現』河野実 他 町田市立国際版画美術館、『アジアの潜在力 海と島が育んだ美術』愛知県美術館、『抽象の力』岡崎乾二郎、『版画辞典』室伏哲郎、『現代版画コレクター事典』長谷川公之、

【課題名】 卒業制作のための試作

【期間】 4月8日(月)～7月26日(金)

【教室】 油画4年実習室

【担当】 田中睦治、知花均、高崎賀朗、金城徹、非常勤講師

【課題】

- ・ドローイング制作 : B全紙大の2枚分のサイズによる制作
- ・試作Ⅰ : 各自のプランニングに沿って実施
- ・試作Ⅱ : 各自のプランニングに沿って実施

【授業概要】 (テーマ) 卒業制作のための試作

卒業制作のための試作Ⅰと試作Ⅱは、卒展での展示構想を含めた重要な準備過程として位置づけます。作品のテーマや制作のねらいなど美術表現における自己の存在を含めた創作の文脈、さらに作品化するための素材やメディア(表現媒体)、形態や規模など、これらを探求し明確にすることを目的とし、前期報告展で展示します。これら試作の展示は卒業制作へ移行するための中間審査の対象とし、審査を通過して後に、実際の展示計画がマケット演習を通して準備することが可能となります。これに先立ち、ドローイング制作を行い、他学年と共同してドローイング・コミュニケーション展を企画・開催し、ドローイングの多様性を通して自他ともに展示の意味を探ります。

【到達目標】

- ・試作Ⅰ、試作Ⅱを前期報告展で展示し、卒展での展示構想を発表することができる。
- ・卒業制作のテーマやコンセプト、作品化を企てる理由や文脈などを文章化することができる。
- ・ドローイング・コミュニケーション展で他学年と共同で企画・開催することができる。

【授業計画・方法】

1. ガイダンス、過去の卒展のスライド・レクチャー(成果と取り組みのタイムスケジュールについて)
2. 試作Ⅰと試作Ⅱの構想プランニングにあたってのディスカッション
3. 試作Ⅰと試作Ⅱの制作プランニングの再検討および作成
4. 各自プランの発表とクラスディスカッション
5. ドローイング制作: ドローイングコミュニケーション展へ向けた制作
6. 試作Ⅰの制作: 各自のプランに従って素材・取材等の準備期間
7. 中間発表とディスカッション、ドローイングの提出(ドローイングコミュニケーション展へ)
8. 試作Ⅰのディスカッション、自己評価書の提出。
9. 試作Ⅱの再度のプランニングと準備期間。
10. 試作Ⅱの制作: 各自のプランに従って素材・取材等の準備期間
11. 中間発表とディスカッション。
12. 前期報告展での展示とディスカッション。
13. 自己評価書の作成。テーマやコンセプト、作品制作の文脈、卒展での展示構想(作品の素材・形態・規模など)
14. 自己評価書についての個別指導
15. 前期分のポートフォリオ制作。提出し、確認後に返却します。ドローイングコミュニケーション展(9月)

【成果物】

- ・ドローイング : B全紙大の2枚分のサイズによる制作
- ・試作Ⅰ・試作Ⅱ
- ・前期ポートフォリオ(A4サイズのクリアファイル、10ページ程度、写真と制作ノート)

【評価の方法・基準】

- 方法 油画Ⅳの通年の総合評価とする。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- テキスト 科目扉項に記載
- 参考文献(資料) 科目扉項に記載

【実習名】 卒業制作

【期 間】 10月1日(火)～1月24日(金)

【教 室】 油画4年実習室

【担 当】 田中睦治、知花均、高崎賀朗、金城徹、非常勤講師

【課 題】 ・卒業作品の制作および卒業作品展での発表
 ・図録作成（全専攻による取り組み）
 ・自画像制作

【授業概要】（テーマ） 卒業作品の完成と発表

後期は、前期の成果に基づき構想を本制作へ移行、作品を追求し完成させ、卒展会場(美術館)において卒業作品を発表しますが、準備の流れとしては、作品構想をマケット制作において実際の縮尺の展示空間に配置して具体化させること、展示方法を美術館使用規定や特殊な設置方法(場所)の場合は企画書を作成して個別に施設側と相談することなど、手順を踏んで実現させていくことが求められます。

【到達目標】

・前期試作の課題を踏まえ、卒業作品を構想し作品を完成させることができる。

【授業計画・方法】

1. 後期ガイダンス 前期の成果を踏まえて卒業制作プランニング
2. 卒展会場での展示スペースの割り当の決定・マケット制作を実施
3. 空間表現展（資料館）と卒展（美術館）のマケット制作を実施
4. 空間表現展のDM, ポスター作成（学科室対応）
5. 制作 中間ディスカッション（10月）
6. 制作
7. 制作 中間ディスカッション（11月）
8. 制作
9. 制作
10. 空間表現展の開催（芸術資料館） 中間ディスカッション（12月）
11. 制作
12. 完成度チェック（1月中旬）
13. 作品撮影 図録作成のための準備（コンセプト文字、レイアウト案など）
14. 作品提出・作品審査 / 卒業制作の過程のポートフォリオの提出（1月末）
15. 卒業作品展 最終講評会（2月中旬）・搬出入作業・展覧会終了後の作品の撤収（2月下旬）

【成果物】

- ・卒業作品
- ・ポートフォリオ
- ・卒業作品展図録

【評価の方法・基準】

- 方法 油画Ⅳの評価方法を参照（前期・後期の総合評価）
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- テキスト 科目扉項に記載
- 参考文献（資料） 科目扉項に記載

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21231	絵画特論 I	2単位 通年	1	講義	絵画専攻教員 寺田栄次郎(非)

■テーマ 絵画組成の基礎

■授業の概要

絵画組成とは、絵画の材料研究と技法史研究を基本に、画家の立場で行う技法研究で、絵画を色と形とマチエールによる層構造から成る表現として捉えるものです。本授業では基本の下地と、絵具を中心に、合わせて広く材料、技法、及び絵画技法史について講義します。

授業は9月の集中講義期間に行います。

■到達目標

- ・絵画の造形を層構造として捉えるとともに、その土台となる下地を表現に合わせて自製できるようにする。
- ・メディウムの違いから絵具を考察し、各自が使用する絵具について理解すると共に、その基礎知識を身に着ける。
- ・西欧と我が国の古典の画家達が、表現と素材の関係をどのように解決したかを理解し、その知見を各自の制作に生かせるようにする

■授業計画・方法

1. 概説
2. 絵画下地(1) 板・合板の水性地塗り
3. 絵画下地(2) 布・紙の水性地塗り
4. 絵画下地(3) エマルジョン塗料の地塗り
5. 絵画下地(4) 有色地塗り
6. 顔料(1) 白色顔料
7. 顔料(2) 体質顔料
8. 顔料(3) 天然無機顔料
9. 顔料(4) 人工無機顔料
10. 顔料(5) 有機顔料
11. 様々な媒材(接合剤)と溶剤
12. 顔料と溶剤の毒性
13. 材料組成
14. 組成構造
15. マチエールの構造

定期試験 授業終了後、記述試験を実施します。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・夏休み前に配布するテキストを良く読み、理解できるところとできないところを整理しておいて下さい。
- ・各自の今までの制作経験の反省と、今後志向する方向と合わせて受講して下さい。
- ・板書、講話内容をできるだけノートを取り、テキストと合わせて毎日の講義を復習してください。
- ・日本・東洋・西洋を問わず、古典作品を、絵画組成の立場で見るとして下さい。

■成績評価の方法・基準

□方法 試験 50%・平常点 25%・ミニレポート 25%で総合的に評価する。平常点は授業への積極的参加度と質問に対する応答です。ミニレポートは、項目のまとめりごとに授業内容についての要約と各自の意見を記して頂くものです。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

□教科書

□テキスト 夏休み前に配布します。

□参考文献 R. J. ゲッテンス、G. L. スタウト『絵画材料事典』、美術出版社

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21331	絵画特論Ⅱ	2単位 通年	2	講義	絵画専攻教員 非常勤講師

■テーマ 絵画論を主軸とした講義とワークショップ

■授業概要

絵画特論Ⅱは、絵画論を主軸とした授業を行います。講義とワークショップ等によるオムニバス方式で通年にわたり行われます。講師には、現代美術作家、美術評論家、美術館関係の学芸員、画廊関係者、美術ジャーナリスト、大学教員など現在の美術状況に関わりのある方々をお招きします。講義では美術作家のコンセプトや作家活動、立ち位置に関する考察や、美術史的な観点から現代美術の状況論、文化論、美術と社会との関係を問うなどの内容等があります。ワークショップ等では、短時間ながらも講師とのマンツーマンによるコミュニケーションを図り新たな認識を促す取り組みを行います。

■到達目標

- ・講義内容及びワークショップ内容について理解し、絵画領域について多面的に考察することができる。
- ・レポートの作成では、自らの見解を整理することができ論理的に記述することができる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、授業説明、第1回：各回のテーマによる講義
2. 第1回：各回のテーマによる講義又はワークショップ
3. 学生作品の講評
4. 授業レポートの作成、提出
5. 第2回：各回のテーマによる講義
6. 第2回：各回のテーマによる講義又はワークショップ
7. 学生作品の講評
8. 授業レポートの作成、提出
9. 第3回：各回のテーマによる講義
10. 第3回：各回のテーマによる講義又はワークショップ
11. 学生作品の講評
12. 授業レポートの作成、提出
13. 第4回：各回のテーマによる講義
14. 第4回：各回のテーマによる講義又はワークショップ
15. 学生作品の講評、授業レポートの作成、提出、授業まとめ

※定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・絵画特論Ⅱの受講年次は2年生です。（履修済み学生の聴講も可能です。希望者は事前に学科室に申し込むこと。）
- ・提示、配布する文献資料などを熟読し自宅での資料整理や図書館等での資料収集を行う。また、問題意識を持ち、疑問、質問事項等を準備する。

■成績評価の方法・基準

□方法 授業レポート60%、平常点40%で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 □テキスト 各回のテーマにより異なるプリント等を配布する。

□参考文献、参考資料 『レポートの組み立て方』木下是雄、ちくま学芸文庫

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21291	古美術研究	4単位 後期	2	演習	絵画専攻教員

■授業概要

古美術研究旅行は、短期間ながらも優れた古美術から近代美術・現代の美術の作品に集中して接すると同時に、歴史を踏まえた美術の流れを読み取り、各自の創作活動への土壌を培う絶好の機会であると言えます。それは、芸術作品を鑑賞して歩くと言う単に観光的なものではなく、その土地を訪ね、自身のテーマでフィールドワーク（調査）し、体感することで風土と芸術文化の関係を深く認識する重要な意味があります。したがって、絵画や彫刻作品に興味をもつだけでなく、総合芸術としての建築や庭の鑑賞のほかにも街づくりの様子やその土地ならではの表現素材探索も大切な要素です。美術館では企画展示のほかにもコレクション、常設展示の見学も行います。

■学習目標

・自身の興味ある時代の歴史や美術作品の由来調べ、当地に自ら赴いてフィールドワークし調査研究することを目的とする。十分な下調べと個々のフィールドワークのねらいをもって授業に臨みます。そして、調査した資料を元にして今後も自身の制作や研究活動にさらに深い洞察力をもつて望むことを目標とする。

■授業計画・方法

（古美術研究を11月中旬に10日間の日程で行う。（古美術研修の中に自主研修を含める。）

1. 4月 ①授業内容の説明
2. 6月 ②古美術研修の内容と日程
3. 9月 ③自主研修のテーマと日程
4. 10月 ④自主研修の計画提出
5. 11月 古美術研修（事前）ガイダンス
6. 行程①（那覇～奈良）移動 奈良の寺社拝観
7. 行程② 奈良の博物館観覧・自主研修
8. 行程③ 奈良の各地の寺院バスツアー（奈良～京都）
9. 行程④ 京都の寺院・庭園・障壁画・自主研修
10. 行程⑤ 京都の寺院・美術館・博物館・自主研修
11. 行程⑥（京都～東京）移動・自主研修
12. 行程⑦ 東京の現代美術館・近代美術館中心に・自主研修
13. 行程⑧ 東京の博物館・記念館中心に・自主研修
14. 行程⑨ 東京近郊の美術館・自主研修
15. 研修後にファイルの提出（帰沖後、B4サイズのファイル配布、2週間後の提出とする。）

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・古美術研修の研修地については、ガイダンスを行う都度に情報を提供する。
- ・自主研修の内容については事前に教員が個別指導を行う。
- ・古美術研究旅行には、デジタルまたはアナログカメラが必要。健康管理には十分な余裕をもって臨むこと。

■成績評価の方法・基準

- ・成績はファイル提出を求める。・ファイルは古美術研修レポート（1200字）のほか以下のものを含め自由に構成し提出する。・ファイルには研究ノートやメモ・写真・チケットの半券・案内図や集めた資料（コピー可）等添付する。
- ・古美術研修、ファイル、レポート、出席等により、総合評価する
- 基準 到達目標を目的として、履修規程に定める「授業科目の成績基準」に則り評価基準とする。

■教科書・参考文献（作品）等

- 教科書「古美術見学手引」近畿地方を中心とする（東京藝術大学美術学部）
- テキスト プリント 奈良古寺見学手引き・京都古寺見学手引き
- 参考文献 「古寺巡礼」土門拳（小学館） 「大和路巡礼」入江泰吉（集英社）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21132	彫刻(絵)	2単位 前期	1	演習	波多野 泉

※絵画専攻(平成30年度以降入学生)のみ受講可

■テーマ 彫刻の量塊と構造「頭像」

■授業の概要

人物の頭部を実際のモデルを使って観察し、塑造技法(modeling)により制作を行い、石膏取りの後、石膏直付け(carvingを含む)によって石膏像作品を完成させる。作品制作、彫刻作品鑑賞を通して、基礎的かつ一般的包括的な彫刻表現の概要を学び、“触覚的”な対象の捉え方、表現方法を理解する。

■到達目標

- ・ 彫刻における量塊と構造を理解する。
- ・ 彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
- ・ 彫刻におけるモデリング(modeling)とカービング(carving)の特性を理解する。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、デッサン：対象(モデルの頭部)の観察、心棒の構造を考える。
2. デッサン、心棒制作：自然のあり様をフォルム(形態)で捉え、量塊を意識する。
3. デッサン、粘土練り：対象の全体と部分の関係を意識する。
4. 塑造、粘土粗付け：対象を大きなフォルムで捉え、量塊を意識する。
5. 塑造：量塊の構成、連続性によるムーブマン(動勢)を意識する。
6. 塑造：対象の全体と部分の関係を意識する。
7. 塑造：粘土素材の可塑性を活かし細部まで試作を重ね、モデリングの特性を理解する。
8. 塑造、スライド及び参考作品鑑賞：近代以降の日本、西洋の塑造彫刻を中心に鑑賞
9. 塑造：彫刻作品における全体と部分の関係を意識する。
10. 塑造：観察による表現における対象と作品の関係を理解する。
11. 石膏取り(雌型制作)：切金打ち、石膏振りかけ、補強入れ、石膏塗り込み
12. 石膏取り：石膏塗り込み、粘土掻き出し
13. 石膏取り(雄型制作)：離型剤塗布、石膏流し込み、補強(スタッフ貼り込み)
14. 石膏取り：雌型割り出し、石膏直付け(石膏の特性と扱い方を理解する。)
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、後片付け

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

危険防止のため作業に適した服装で臨むこと。(事前に適宜指示する。)

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点(制作への取組)40%、成果作品(石膏像)60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考文献 Marino Manini "MARINO MARINI" Edi-Albra、造形芸術研究会(編)『造形ハンドブックⅡ』造形社
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21133	デザイン（絵）	2単位 前期	1	演習	平山英樹 高崎賀朗 関谷理 仲本賢 赤嶺雅

※ 絵画専攻（平成30年度以降入学生のみ）受講可

■テーマ 絵画表現を活用してデザインの基礎を学ぶ。

■授業の概要

絵画表現を活用してデザインの基礎を総合的かつ包括的に学習する。様々な撮影方法と表現方法を学び、さらにパーソナルコンピュータを使用して、主にAdobe Photoshop と同社Illustrator の両画像編集ソフトの学習をしながら、モチーフの観察・制作（インプット）から、紙媒体や映像メディアへの出力（アウトプット）までを、一貫して学習する。絵画専攻の学生として作成した作品を撮影、入力、編集、出力を通して、デザインの過程を学習する。

■到達目標

- ・デザインの役割や平面構成、色彩構成としての基礎を理解することができる。
- ・映像機器（写真機、動画撮影機器）を使用して基本的な視覚デザイン表現ができる。
- ・コンピュータを使用し、印刷などの紙媒体の視覚伝達表現を実践的に活用することができる。

■授業計画・方法

1. 授業ガイダンス。デザインの社会的役割
2. 平面構成（面と線、構図と空間の構成力）を学び、色彩構成（配色や効果について表現力）を学ぶ。（担当：赤嶺）
3. 映像機器の構造、照明及び周辺機器。（担当：仲本）
4. スタジオ撮影1。立体的な物体の効果的撮影方法。（担当：仲本）
5. スタジオ撮影2。自己作品の個別撮影方法研究。（担当：仲本）
6. デジタル写真現像。RAW データの現像処理。（担当：仲本）
7. デジタル写真現像。写真の修正（合成、変形）。（担当：仲本）
8. コンピュータ機器とOS 解説。基本機能、基本用語について。（担当：赤嶺）
9. Illustrator 基本操作1。印刷サイズについて。図形及び文字打ちなどの操作。（担当：赤嶺）
10. Illustrator 基本操作2。ツール及び配色や効果、各種パレットの操作。（担当：赤嶺）
11. Photoshop 基本操作1。画像の取り込み、画像解像度、画像補正の解説及び操作。（担当：赤嶺）
12. Photoshop 基本操作2。画像加工について、各種パレットの解説及び操作。（担当：赤嶺）
13. ソフト併用操作。レイアウトの設定、画像配置の基本操作。（担当：赤嶺）
14. 出力機器の操作及び課題制作のアウトプット。（担当：赤嶺）
15. 講評及びデザインの役割についてディスカッション。

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・準備：デザイン基礎である平面構成、色彩構成の作品鑑賞や写真、コンピュータを理解する。
- ・復習：授業の中で行った講義及び実技はその日のうちに整理、復習を行う。
- ・展開：学んだ授業を実践的に作品へと展開し、具体的成果へと結びつける。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点(制作への取組)40%、成果物(プリント作品)60%による総合評価

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 配布するプリント

□テキスト 特になし

□参考文献 『基礎造形シリーズ 芸術・デザインの平面構成』朝倉直巳著（六耀社）、『基礎造形シリーズ 芸術・デザインの色彩構成』朝倉直巳著（六耀社）等々

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21209	工芸(絵)	2単位・前期	2	演習	名護 朝和 非常勤講師

■【テーマ】 工芸の素材、技法、工程によるプロダクト制作

■授業概要

この演習は、伝統的な型染表現に取り組み、工芸におけるプロダクト生産や量産性について学び、生活の中にある工芸作品のよさや美しさ、工芸の伝統と文化について理解を深める。

■到達目標

- ・ 工芸における素材と技法・工程、道具や機器等の操作を理解し作品に表現できる。
- ・ 工芸制作を通して、工芸の特性と量産の概念を理解する。
- ・ 地域の伝統工芸の表現と日本の工芸の伝統や文化、アジアの工芸について鑑賞し理解を深める。

■授業計画・方法

1. 課題説明 (工芸分野におけるプロダクトについて)
2. 型染表現の解説
3. ステンシル技法による型染表現の実践
4. 図案構想 (教員による個別指導)
5. 図案作成 (教員による個別指導)
6. 型彫り実践 (引き彫り)
7. 型彫り実践 (紗張り)
8. 染色技法における材料や素材、工程について解説
9. 布素材へ糊置き 地入れ 顔料染色の解説
10. 染色の実践 (前期)
11. 染色の実践 (中期)
12. 染色の実践 (後期)
13. 定着について解説 蒸し、水元の実践
14. 工芸作品鑑賞 (教員による工芸概説)
15. 講評会 レポート提出
定期試験は実施しない

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・ レポートの提出を行う
- ・ 高価な道具や機器を扱うため、注意を怠らないこと

■成績評価の方法・基準

□方法 提出作品 40%・平常点 30%・講評会発言及びレポート 30%で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

□教科書 必要に応じて指示する

□テキスト 必要に応じて指示する

□参考文献 型絵染 -伊砂利彦の作品と考へ- 株式会社用美社
工芸の見方・感じかた 東京国立近代美術館工芸課 編 淡交社 ¥2500-